



reface
CS

reface
DX

reface
GP

reface
YC

モバイルミニキーボード

取扱説明書

JA

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。

電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外及び水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源/電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(48ページ)を使用する。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

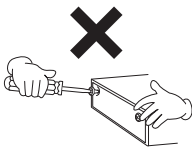
電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上をろうそくなど火気のあるものを置かない。ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

電池



禁止

電池を分解しない。電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。



禁止

電池を火の中に入れてはいけない。破裂するおそれがあります。



禁止

使い切りタイプの電池は、充電しない。充電すると液漏れや破裂の原因になります。



禁止

電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒を持ち運んだり、保管しない。電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。



禁止

指定(48ページ)以外の電池を使用しない。火災、発熱、液漏れの原因になります。



必ず実行

複数の電池を使う場合、同じメーカーの同じ種類、同じ品番の新しい電池を使用する。種類やメーカー、品番の異なる電池を一緒に使用したり、新しい電池と古い電池を一緒に使うと、火災、発熱、液漏れの原因になります。



必ず実行

電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。



必ず実行

長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。



必ず実行

充電式ニッケル水素電池を使用する場合は、電池の取扱説明書の指示に従う。電池に付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。また、充電電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。専用器以外を使用すると、電池が発熱、液漏れ、破裂するおそれがあります。



禁止

電池は子供の手の届くところに置かない。お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



禁止

電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。(電池を使用している場合は、電池を本体から抜く。)

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠️ 注意

電源/電源アダプター



禁止

たこ足配線をしなさい。

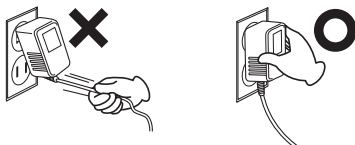
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののりたり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々へのけがをしったりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々へのけがをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々への転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⓪](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(すべてのランプが消えている状態または画面表示が消えている状態)でも微電流が流れています。[⓪](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用済みの電池は、各自自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPad、iPhoneのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPad、iPhoneの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- 鍵盤設定(41ページ)は、自動的に保存されます。ただし保存されたデータは故障やご操作などのために失われることがありますので、ご注意ください。
- reface CS、reface DXで録音したループフレーズは保存できません。
- reface DXの場合
 - ボイス設定:
ストアせずに電源を切ったり、オートパワーオフ(8ページ)により電源が切れるとデータが消えてしまうので、ご注意ください。
 - MIDI設定、システム設定:
画面を切り替えずに電源を切ったり、オートパワーオフにより電源が切れるとデータが消えてしまうので、ご注意ください。
保存されたデータも、故障やご操作などのために失われることがあるので、ご注意ください。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
- * 上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
- * 上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- [] (かぎっこ)は、パネル上にあるボタン類や端子を示します。
- 本書では一部、reface CS、reface DX、reface CP、reface YCをそれぞれCS、DX、CP、YCと記載しています。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja 02)

はじめに

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、reface 4モデル(reface CS、reface DX、reface CP、reface YC)共通マニュアルとなっています。

この楽器に搭載された機能を十分に生かすため、モデル名をお確かめのうえ、本書を是非ご活用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきませうお願いします。

付属品 (お確かめください)

- 取扱説明書 保証書
 電源アダプター MIDI変換ケーブル

■ 電子マニュアル(PDF形式)

この楽器には、この取扱説明書のほかに以下の電子マニュアルが用意されています。

- リファレンスマニュアル
- MIDIリファレンス
- iPhone/iPad接続マニュアル

電子マニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名「reface」や「iPhone/iPad」などと入力して「検索」をクリックします。

ヤマハ ダウンロード <https://download.yamaha.com/jp/>

PDFファイルをご覧いただくためにはAdobe Reader[®]が必要です。Adobe ReaderはAdobe社のページから無償で最新バージョンを入手することができます。

特長

- コンパクトサイズにもかかわらず本格的なモデル専用音源とHQ mini鍵盤を搭載
- いつでもどこでも気軽に音を楽しめるよう、スピーカーの搭載と電池駆動を実現

reface CS

- アナログフィジカルモデリング(AN音源)によるリアルなシンセサウンド
- スライダーによる視覚的かつ直感的に操作可能なユーザーインターフェース
- 即戦力のエフェクトを4種類搭載
- 新しい演奏表現を可能とするフレーズルーパー機能

reface CP

- 6種類のビンテージキーボードサウンドを搭載
- 組み合わせで多彩なサウンドを作り出す厳選されたビンテージエフェクト
- ビンテージの質感を持った操作性とデザイン

reface DX

- 新しいフィードバック方式を搭載したFM音源
- 初心者でもFMシンセシスを気軽に楽しめる、FMセクション
- 即戦力のエフェクトを2系統7種類搭載
- 新しい演奏表現を可能とするフレーズルーパー機能

reface YC

- OrganFlutes音源による5種類のビンテージオルガンサウンドを搭載
- オルガンらしい加算合成を楽しめるFOOTAGEスライダー
- ロータリーエフェクトを直感的に操作するROTARY SPEEDレバー

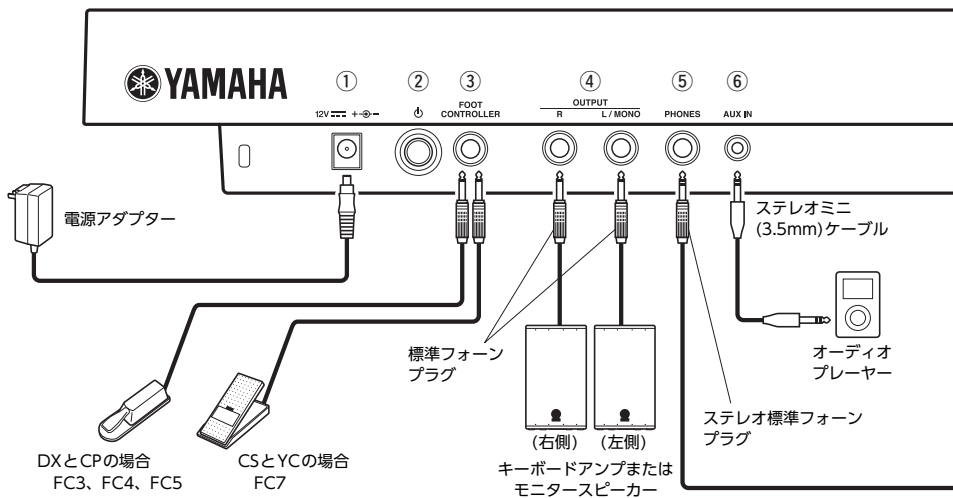
もくじ

<u>reface CS</u>	フロントパネルの各部のはたらき 10 フレーズルーパーを使う 14	CS
<u>reface DX</u>	フロントパネルの各部のはたらき 16 フレーズルーパーを使う 24	DX
<u>reface CP</u>	フロントパネルの各部のはたらき 26 おすすめの設定例 30	CP
<u>reface YC</u>	フロントパネルの各部のはたらき 32 おすすめの設定例 35	YC

安全上のご注意	S-1
はじめに	2
付属品 (お確かめください).....	2
特長	2
リアパネルの各部のはたらき	4
電源を入れる/切る	6
電源アダプターを使うときの準備	6
電池を使うときの準備	7
電源を入れる.....	8
電源を切る	8
オートパワーオフ機能.....	8

外部機器と接続する	36
MIDI 機器と接続する	36
コンピューターと接続する.....	37
[USB]端子ご使用時の注意	39
ヤマハUSB-MIDIドライバー	39
iPhone/iPadと接続する	39
工場出荷時の状態に戻す (ファクトリーリセット)	40
ファクトリーリセットを行なう	40
資料	41
鍵盤設定一覧	41
reface DXメッセージ一覧.....	45
困ったときは	46
仕様	48
索引.....	49

リアパネルの各部のはたらき



① DC IN端子(6ページ)

付属の電源アダプターを接続します。

② [ON/OFF]スイッチ(8ページ)

電源のスタンバイ(■)とオン(■)を切り替えます。

③ [FOOT CONTROLLER]端子または[SUSTAIN]端子

● reface CSまたはreface YCの場合

別売のフットコントローラー (FC7) を接続すると、音量調整ができます。

● reface DXの場合

別売のフットスイッチ (FC4, FC5) を接続すると、サステイン効果をかけられます。接続したフットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。

別売のフットペダルFC3を接続すると、本体に接続している外部MIDI機器またはコンピューターに、ハーフダンパー機能に対応したMIDIメッセージを送信できます。この場合、本体のシステム設定画面「Sustain」を「FC3」に変更してください。ただし、本体の音にハーフダンパー機能の効果はかかりません。

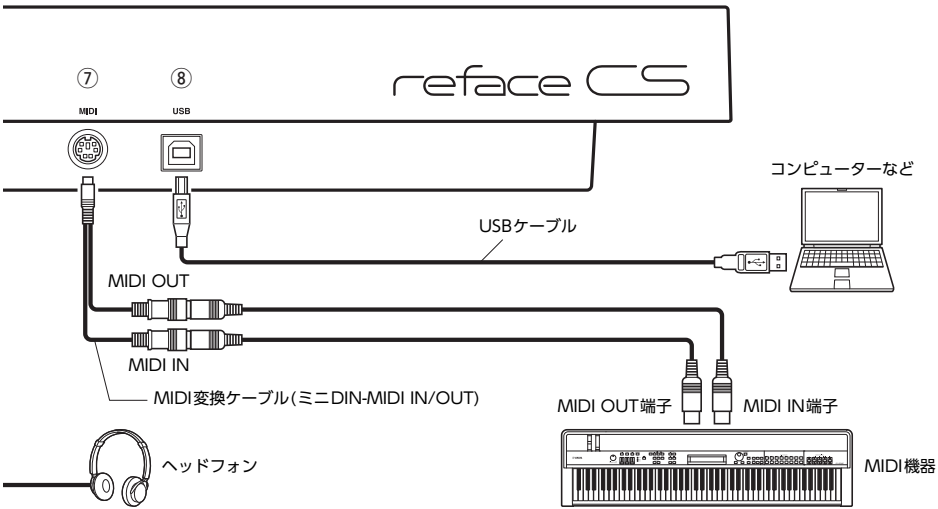
● reface CPの場合

別売のフットペダル(FC3)を接続すると、ハーフダンパーに対応したサステイン効果をかけられます。接続したフットペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができ、ペダルの踏み込み具合によってその長さをコントロールできます。

また、別売のフットスイッチ (FC4, FC5) を接続すると、ハーフダンパー対応なしのサステイン効果をかけられます。この場合、電源起動時に、鍵盤のG2を押しながら電源ボタンを押してください。パネル上の複数のランプが点滅し、本体のペダルの設定が「FC4/5」に変更されます。詳しくは41ページをご参照ください。

- 本書では、FC3AなどのFC3相当品とFC3をまとめてFC3と記載します。
- 本書では、FC4AなどのFC4相当品とFC4をまとめてFC4と記載します。

イラストは代表してreface CSのものを掲載しています。



④ OUTPUT [R]/[L/MONO]端子

キーボードアンプやモニタースピーカーを接続します。本体のスピーカーと同じ音が出力されます。ステレオ標準フォーンタイプの出力端子です。モノラル出力したい場合は、[L/MONO]端子だけに接続します。

⑤ [PHONES]端子

ヘッドフォンを接続します。ステレオ標準フォーンタイプ(6.3mm)の出力端子です。ステレオミニフォーンタイプ(3.5mm)のイヤホンやヘッドフォンをrefaceの[PHONES]端子に接続する場合、3.5mm ↔ 6.3mm変換コネクタをお使いください。ヘッドフォンを接続すると自動的に内蔵スピーカーから音が出なくなります。ただし、OUTPUT端子からは[PHONES]端子と同じ音が出力されます。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

⑥ [AUX IN]端子

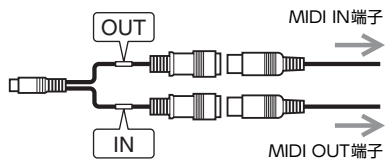
外部オーディオ機器を接続します。接続したオーディオ機器の出力を、本体のサウンドにミックスして出力させることができます。

NOTE

本体との音量バランスは、外部オーディオ機器などの出力機器側のボリュームで調節してください。

⑦ [MIDI]端子(36ページ)

付属のMIDI変換ケーブルと別売のMIDIケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。MIDIメッセージを送受信できます。



⑧ [USB]端子(39ページ)

USB1.1と2.0に対応したUSBケーブルを使用することができます。コンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスと接続し、MIDIメッセージを送受信できます。詳細については「[USB]端子ご使用時の注意」(39ページ)をご覧ください。

NOTE

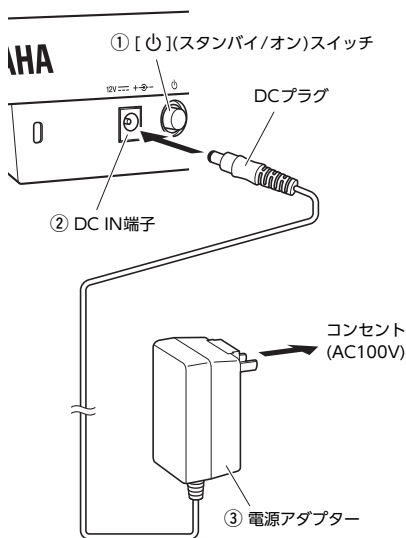
iPhoneまたはiPadとの接続のしかたについては、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。

電源を入れる/切る

この楽器は電源として電源アダプターか電池を使用できます。

電源アダプターを使うときの準備

- ① [⏻](スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイの状態(■)になっていることを確認します。
- ② 電源アダプターのDCプラグを本体のDC IN端子に接続します。
- ③ 電源アダプターを電源コンセント(AC100V)に接続します。

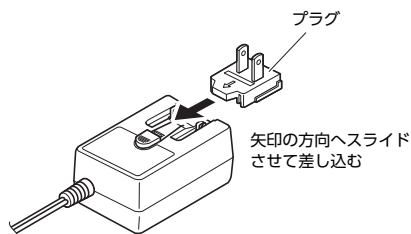


NOTE

- 電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。
- 電源アダプターが接続されている場合は、電池がセットされていても電源はアダプターから供給されます。
- [⏻](スタンバイ/オン)スイッチスイッチがオン(■)の状態ではDCプラグを抜いたり差ししたりしないでください。故障の原因になります。

⚠ 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(48ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- 付属の電源アダプターは100V用です。電源は必ずAC100Vを使用してください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようにご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



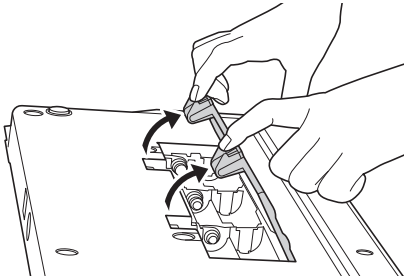
⚠ 注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

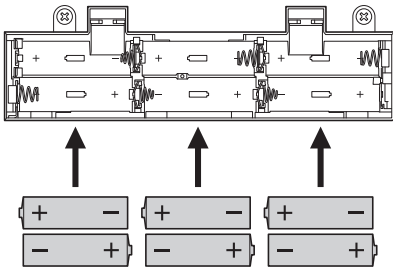
電池を使うときの準備

この楽器では、単3形のアルカリ乾電池、マンガン乾電池、および充電式ニッケル水素電池(充電電池)を使用できます。使い方により大きな電力を消費する場合がありますので、アルカリ乾電池または充電電池のご使用をおすすめします。

- ① 電源が切れていることを確認してください。
- ② 本体を柔らかい布などの上で裏返し、電池カバーを外します。



- ③ 電池6本を入れます。イラストに合わせて、向きを間違えないように入れてください。



- ④ 電池カバーを閉めます。

注記

- 電池がセットされ電源が入っているときに、電源アダプターを抜き差しすると、電源が切れることがあります。電源が切れると録音中や保存されていないデータが失われますので、ご注意ください。
- 電池は早めにお取りかえいただくことをおすすめします。たとえば、スピーカー出力をオンにするなど、操作方法によっては、急に電池が少なくなり、正常に動かなくなることがあります。このような場合は、すべての乾電池を交換するか、充電電池を充電してください。また、長時間使用したい場合は、電源アダプターの使用をおすすめします。
- 充電電池をお使いの場合、電池が少なくなり、ランプが点滅するかメッセージが表示されたら、すぐに充電してください。そのまま使用続けると充電電池の寿命に影響を与えます。

NOTE

- 充電電池は、必ず専用の充電器で充電してください。この楽器では充電できません。
- 電池が本体に入っている状態でも、アダプターを本体に差し込むと、アダプターから電源が供給されます。

電池が少なくなると以下の動作をします。

● reface CS

OSCのランプが点滅します。

● reface DX

画面に「Battery Low!」と表示されます。



● reface CP

TYPEのランプが点滅します。

● reface YC



WAVEのランプが点滅します。

電源を入れる

- ① [VOLUME]スライダーまたは[VOL]スライダーを下げて、音量を最小にします。スピーカーや他のキーボードなどの外部機器を接続している場合は、外部機器の音量も最小にします。
- ② 本体リアパネルの[(スタンバイ/オン)スイッチを押して、オン()にします。
 - reface CS、reface CP、reface YC
パネル上の複数のランプが点灯します。
 - reface DX
画面に表示が出ます。
- ③ スピーカーや他のキーボードなどの外部機器の電源を入れます。

音量は鍵盤を弾いて確かめながら、徐々に上げてください。

電源を切る

- ① 楽器本体と外部機器の音量を最小にします。
- ② 外部機器の電源を切ります。
- ③ 本体リアパネルの[(スタンバイ/オン)スイッチを押して、スタンバイ()にします。

注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。また、電池を使用している場合は、電池を本体から抜いてください。

注記

- reface CSの場合：
電源を切ると、ループフレーズは失われます。ご注意ください。
- reface DXの場合：
電源を切ると、ループフレーズと、保存していないパラメーター設定は失われます。ご注意ください。

オートパワーオフ機能



この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が30分操作されないと自動的に電源が切れる機能です。オートパワーオフ機能の設定は電源を切っても保存されます。

アンプ、スピーカー、コンピューターなどの外部機器を本体に接続した状態で一定時間操作しない場合は、外部機器損傷を防ぐために、取扱説明書の手順に従って外部機器と本体の電源を切ってください。接続した状態で自動的に電源が切れるのを避けたい場合は、オートパワーオフを解除してください。

注記

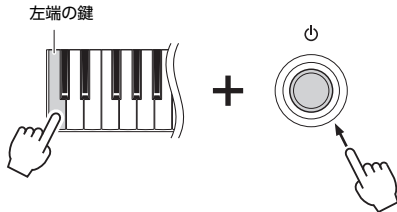
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手で本体の電源を切ってください。
- reface DXのみ：
オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないボイス設定は失われます。ご注意ください。

NOTE

オートパワーオフで電源が切れたあと電源を入れ直す場合は、[(スタンバイ/オン)スイッチをいったんスタンバイの位置に戻してから、もう一度[(スタンバイ/オン)スイッチを押してください。

■ オートパワーオフ機能を無効にする

- ① 電源が入っている場合には、一度電源を切ります。
- ② 左端の鍵を押したまま電源を入れます。



● reface CS、reface CP、reface YC

パネル上の複数のランプが点滅します。

● reface DX

画面に「Auto power off disabled」と表示されます。

- ③ 点滅や画面表示が終わったら、指を離します。

● reface DXの場合

[FUNCTION] ボタンを使ってオートパワーオフ機能を無効にすることもできます。

- ① [FUNCTION] ボタンを押して、システム設定画面を選びます。
- ② DATA ENTRY左端のスイッチをタップします。
画面左端の「AUTO P.OFF」が「ON」から「off」に変わります。

■ オートパワーオフ機能を有効にする

一度無効にしたオートパワーオフ機能を有効にしたいときは、ファクトリーリセットを行いません。

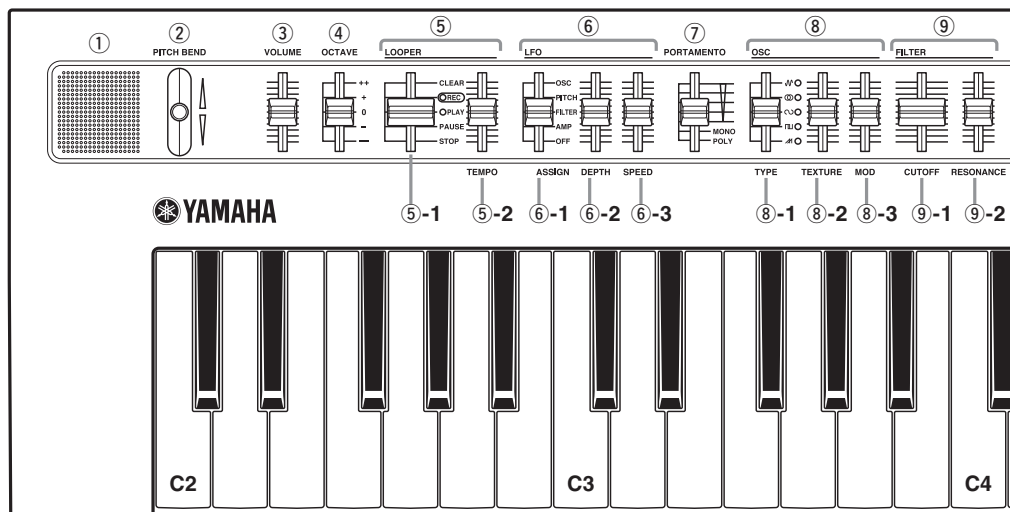
詳細は「工場出荷時の状態に戻す(ファクトリーリセット)」(40ページ)を参照してください。

● reface DXの場合

[FUNCTION] ボタンを使ってオートパワーオフ機能を有効にすることもできます。

- ① [FUNCTION] ボタンを押して、システム設定画面を選びます。
- ② DATA ENTRY左端のスイッチをタップします。
画面左端の「AUTO P.OFF」が「off」から「ON」に変わります。

フロントパネルの各部のはたらき



① 内蔵スピーカー

本体の音が出力されます。内蔵スピーカーから音を出したくない場合は、電源起動時に鍵盤のD2を押しながら電源を入れます。詳しくは41ページをご参照ください。ヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

② [PITCH BEND](ピッチベンド)レバー

ピッチがなめらかに変化します。レバーを上へ動かすとピッチが上がっていき、下へ動かすとピッチが下がっていきます。ピッチベンドレンジを反転させると、ピッチが変化する方向が変わり、reface CSを手で持って演奏したときにギターのチョーキングのような動きをすることができます。反転させると、レバーを下に動かしたときにピッチが上ががり、レバーを上へ動かしたときにピッチが下がります。詳しくは「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。

③ [VOLUME](ボリューム)スライダー

楽器全体の音量を調節します。スライダーを上へ動かすと、内蔵スピーカー、[R]/[L]/[MONO]端子、[PHONES]端子からの出力が大きくなります。

④ [OCTAVE](オクターブ)スライダー

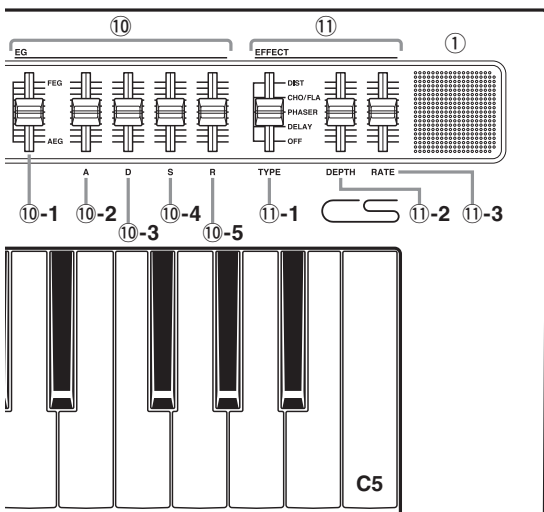
鍵盤を1オクターブ単位で切り替えます。たとえば、「+」にすると、鍵盤でC3(上のイラスト参照)を弾いたときにC4の音が出ます。「++」(2オクターブ上)、「+」(1オクターブ上)、「0」(元のピッチ)、「-」(1オクターブ下)、「--」(2オクターブ下)から選びます。

⑤ LOOPER(ルーパー)セクション

フレーズルーパーを操作します。ループフレーズを複数重ねて録音したり再生できます。最大で2000音または120 BPMで10分のループフレーズをMIDIデータとして一時的に録音することができます。フレーズルーパーの使いかたについては14ページをご覧ください。

NOTE

- 電源を切るとフレーズルーパーに録音したループフレーズは消去されます。
- ループ再生や鍵盤演奏で同時発音数が8音以上になった場合は、古い音から消えていきます。(後着優先)



⑤-1. LOOPER(ルーパー)スライダー

CLEAR(クリア)	録音したループフレーズを消去します。
REC(レック)	1つ目のフレーズ録音時： 録音待機状態になります。 RECを選んだ状態で鍵盤を弾くと録音が始まります。 2つ目以降のフレーズ録音(オーバーダビング)時： スライダーをRECにしたときから録音が始まります。
PLAY(プレイ)	再生します。RECからPLAYへ切り替えると録音が終わわり、ループフレーズの再生が始まります。PAUSEからPLAYへ切り替えると停止した場所からループ再生を始めます。STOPからPLAYへ切り替えると、ループの先頭から再生を始めます。
PAUSE(ポーズ)	PLAYからPAUSEへ切り替えると、ループ再生が一時停止します。
STOP(ストップ)	再生を停止します。

⑤-2. [TEMPO](テンポ)スライダー

ループ再生のテンポを調節します。スライダーを一番下まで動かすとテンポが30 BPM、一番上まで動かすと300 BPMになります。

⑥ LFO(エルエフオー)セクション

Low Frequency Oscillator(ローフリケンシーオシレーター)(以下LFO)の設定を調節します。

⑥-1. [ASSIGN](アサイン)スライダー

LFOで何を変調したいかを決めます。

OSC(オシレーター)	オシレーター固有のパラメーターを調節します。OSC [TYPE]に合わせて、変調されるパラメーターの種類が変わります。
PITCH(ピッチ)	オシレーターのピッチを調節します。
FILTER(フィルター)	フィルターのカットオフ周波数を変調します。
AMP(アンプ)	オシレーターの音量を調節します。
OFF(オフ)	効果がかかりません。

⑥-2. [DEPTH](デプス)スライダー

LFOの深さ(かかり具合)を調節します。

⑥-3. [SPEED](スピード)スライダー

LFOのレート(動作周波数)を変更します。

⑦ [PORTAMENTO](ポルタメント)スライダー

ポルタメントと楽器全体の発音モードの設定をします。

	発音モードがMONOになり、ポルタメントタイムを調節します。
MONO(モノ)	発音モードがMONOになります。
POLY(ポリ)	発音モードがPOLYになります。ポルタメントはかかりません。

⑧ OSC(オシレーター)セクション

オシレーターの設定をします。3つのスライダーを使って音色を作ります。

さらに、LFOセクションの⑥-1 [ASSIGN] スライダーで「OSC」を選び、LFOセクションの[DEPTH]スライダーと[SPEED]スライダーも使って音色を作ることができます。

⑧-1. [TYPE](タイプ)スライダー

⑧-2. [TEXTURE](テクスチャー)スライダー

⑧-3. [MOD](モジュレーション)スライダー

※ [LFO(OSC)] ではLFOセクションで「OSC」を選んだときに何ができるかを示しています。

M (マルチソー)	
特徴	鋸歯状波を使って、基本的なシンセサイザー音色を作ります。鋸歯状波をいくつも重ねて分厚い音色を作ったり、1オクターブ低い音が鳴る「サブオシレーター」を加えて音を太くしたりすることができます。
[TEXTURE]	サブオシレーターを加えて、音に厚みを出します。
[MOD]	鋸歯状波をいくつも重ねて、音にゆらぎと分厚さを加えます。
LFO(OSC)	オシレーターのピッチをLFOでゆらします。サブオシレーターには効果しません。
使いかた	トランス系のパッドやテクノ・ベース等の音色を作るのに適しています。
P (パルス)	
特徴	矩形波を使って、基本的なシンセサイザー音色を作ります。ピッチが異なる2つの矩形波を重ねることで、複雑な音を作ります。
[TEXTURE]	2つめの矩形波のピッチを変更します。
[MOD]	パルス幅を変更します。スライダーを上げると、特徴的な線の細い音に変わります。
LFO(OSC)	パルス幅をLFOでゆらします。パルスウィズモジュレーションと呼ばれる独特な効果を得ることができます。
使いかた	リードや、パッド、シンセベースなどの音色を作るのに適しています。

C (オシレーターシンク)	
特徴	2つのオシレーター (OSC1、OSC2)のOSC2を強制的にOSC1に同期させて音色を作ります。OSC2のピッチや音色を変えることで、強烈な倍音が発生させ、ギラギラした特徴ある音色を作ることができます。
[TEXTURE]	OSC2のピッチと音色を変更します。発生させる倍音がまるやかになります。
[MOD]	OSC2のピッチを変化させる深さを設定します。
LFO(OSC)	OSC2のピッチをLFOで変化させます。
使いかた	ソロを演奏するリード音色などを作るのに適しています。
Q (リングモジュレーション)	
特徴	2つのオシレーター (OSC1、OSC2)の信号をかけ合わせて音色を作ります。それぞれのオシレーターのピッチを変えることで、音程感のない金属的な音色を作ることができます。
[TEXTURE]	OSC1のピッチを変更します。
[MOD]	OSC2のピッチを変更します。
LFO(OSC)	OSC2のピッチをLFOで変化させます。
使いかた	過激なベース音色や効果音を作るのに適しています。
W (フリケンシーモジュレーション)	
特徴	2つのオシレーター (OSC1、OSC2)のうち、OSC1の周波数をOSC2で変調させて音色を作ります。YAMAHA DX7のような、FM音源独特の強烈な倍音の音色を作ることができます。
[TEXTURE]	変調の深さを設定します。
[MOD]	変調する側のオシレーター (OSC2)のピッチを変更します。
LFO(OSC)	モジュレーションの深さをLFOで変調することができます。
使いかた	リードや、シンセコンプ系の音色や効果音を作るのに適しています。[MOD]スライダーを一番上まで動かしてノイズ作り、電子ドラムのスネア音色として応用することもできます。

⑨ FILTER(フィルター)セクション

フィルターの設定をします。

⑨-1. [CUTOFF](カットオフ)スライダー

ローパスフィルター (LPF 24dB/Oct) のカットオフ周波数を調節します。スライダーを上げると音が明るくなり、下げると音が暗くなります。

⑨-2. [RESONANCE](レゾナンス)スライダー

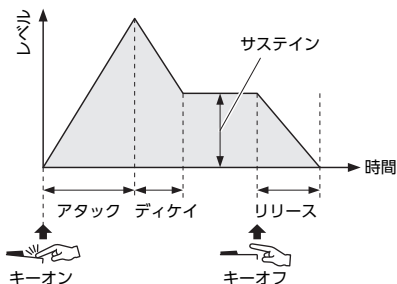
レゾナンス(音にクセをつける効果)を調節します。スライダーを上げるとクセが強くなり、下げると弱くなります。

注記

レゾナンスを上げた状態で、カットオフを下げると発振するおそれがあり、スピーカーをこわす原因となります。ご注意ください。

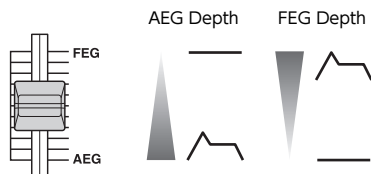
⑩ EG(イージー)セクション

Envelope Generator(エンベロープジェネレーター)を使って、音の立ち上がりから減衰までの各要素のレベル(音量)を調節します。



⑩-1. EG(イージー)バランススライダー

Filter Envelope Generator(フィルターエンベロープジェネレーター)(以下FEG)と Amplitude Envelope Generator(アンプリチュードエンベロープジェネレーター)(以下AEG)をどのくらい効果させるかのバランスを調節します。スライダーを一番上にするるとFEGの効果が最大になります。スライダーを一番下にするると、AEGの効果が最大になり、FEGの効果はかからなくなります。真ん中にするるとFEGとAEGが1対1になります。



⑩-2.～⑩-5. [A][D][S][R]スライダー

各スライダーを使って、FEGまたはAEGのアタックタイム(A)、ディケイタイム(D)、サステインレベル(S)、リリースタイム(R)を調節します。

⑪ EFFECT(エフェクト)セクション

エフェクトを設定します。

⑪-1. [TYPE](タイプ)スライダー

DIST(ディストーション)、CHO/FLA(コーラス/フランジャー)、PHASER(フェーザー)、DELAY(ディレイ)、OFF(オフ)から選びます。オフにするるとエフェクトがスルーになります。

⑪-2. [DEPTH](デプス)スライダー

エフェクトの深さ(かかり具合)を調節します。

⑪-3. [RATE](レート)スライダー

EFFECT[TYPE]スライダーで「DIST」を選んだ場合はトーン、「CHO/FLA」、「PHASER」を選んだ場合はレート、「DELAY」を選んだ場合はディレイタイムを調節します。

フレーズルーパーを使う

フレーズルーパーを使ってループフレーズを鳴らしてみましょう。フレーズルーパーではフレーズを重ねて録音する「オーバーダビング」と、くり返し再生する「ループ再生」をします。reface CSに搭載されているフレーズルーパーでは、録音した後でテンポを変えられるだけでなく、OSC、FILTER、EGなどその他のセクションのスライダーを動かすことで音の変化を楽しむことができます。

フレーズルーパーで遊ぶ

フレーズルーパーでは、最大2000音、または120 BPMのテンポで10分まで録音することができます。

NOTE

本体の電源が切れると、ループフレーズは消去されません。

■ループフレーズを最初から録音する

1. フレーズルーパーの準備をします。

- ① LOOPERスライダーを「CLEAR」に切り替えます。
録音されているループフレーズがあれば削除され、新しいループフレーズが録音できる状態になります。

2. 1つ目のフレーズを録音します。

- ① LOOPERスライダーを「REC」に切り替えます。
「REC」にするとフレーズルーパーが録音待機状態になり、テンポに合わせてガイド音が鳴り、「REC」ランプが点滅します。テンポは[TEMPO]スライダーを動かして調節します。
ガイド音は1つ目のフレーズを録音するときだけ鳴ります。ガイド音を鳴らしたくない場合は、LOOPERスライダーを「CLEAR」から「PLAY」に切り替えてから、「REC」に切り替えます。
ガイド音は現在の音色が鳴ります。スライダーで音色を変化させるとガイド音も変わります。
- ② 鍵盤で録音したいフレーズを弾きます。
1つ目のフレーズを録音するときは、弾き始めた音から録音が始まります。reface CSはキーオンスタートのみに対応しています。
録音が始まると「REC」ランプが点灯し、「PLAY」ランプが点滅します。
- ③ 録音を終わりたいタイミングでLOOPERスライダーを「PLAY」に切り替えます。
録音が終わり、録音したフレーズのループ再生が始まります。
ループ再生中は、テンポに合わせて「PLAY」ランプが点滅します。ループ再生のとき、ガイド音は鳴りません。

3. オーバーダビングします。

オーバーダビングでは、LOOPERスライダーを「REC」に切り替えたときに録音が始まります。オーバーダビングのとき、ガイド音は鳴りません。

- ① 再度LOOPERスライダーを「REC」に切り替えます。
- ② 再生されるフレーズに合わせて、オーバーダビングしたいフレーズを鍵盤で弾きます。
- ③ 録音を終わりたいタイミングでLOOPERスライダーを「PLAY」に切り替えます。録音が終わり、重ねて録音したフレーズがループ再生されます。

必要に応じてオーバーダビングをくり返します。

NOTE

- 2000音を超えると、「REC」にしても録音されなくなります。
- 最大同時発音数を超えると、発音タイミングの古いものを消して新しい音を鳴らします。

● ループフレーズの音色を変化させます。

録音したループフレーズを鳴らしながら、LFO、PORTAMENTO、OSC、FILTER、EG、EFFECTセクションのスライダーを動かして音色の変化を楽しむことができます。

● ループフレーズを止めます。

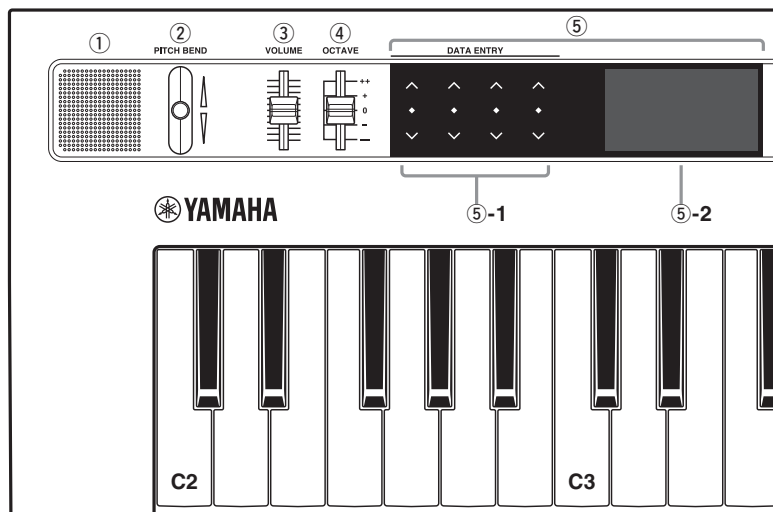
● 一時停止する

LOOPERスライダーを「PLAY」から「PAUSE」に切り替えます。フレーズのループ再生が一時停止します。もう一度「PLAY」にすると、一時停止したところから再生が始まります。

● 停止する

LOOPERスライダーを「PLAY」から「STOP」に切り替えます。フレーズのループ再生が止まります。もう一度「PLAY」にすると、フレーズの先頭からループ再生が始まります。

フロントパネルの各部のはたらき



① 内蔵スピーカー

本体の音が出力されます。内蔵スピーカーから音を出したくない場合は、電源起動時(8ページ)に鍵盤のD2を押しながら電源を入れます。詳しくは41ページをご参照ください。ヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

また、[FUNCTION]ボタンを押して、システム設定画面からスピーカー出力の設定を変えることもできます。

② [PITCH BEND](ピッチベンド)レバー

ピッチがなめらかに変化します。レバーを上へ動かすとピッチが上がっていき、下へ動かすとピッチが下がっていきます。ピッチベンドはボイスごとに設定できます。

ピッチベンドレンジを反転させると、ピッチが変化する方向が変わり、reface DXを手で持って演奏したときにギターのような動きをすることができます。反転させると、レバーを下に動かしたときにピッチが上がリ、レバーを上へ動かしたときにピッチが下がります。reface DXでは[FUNCTION]ボタンからピッチベンドの設定を変更することができます。

③ [VOLUME](ボリューム)スライダー

楽器全体の音量を調節します。スライダーを上へ動かすと、内蔵スピーカー、[R]/[L]/[MONO]端子、[PHONES]端子からの出力が大きくなります。

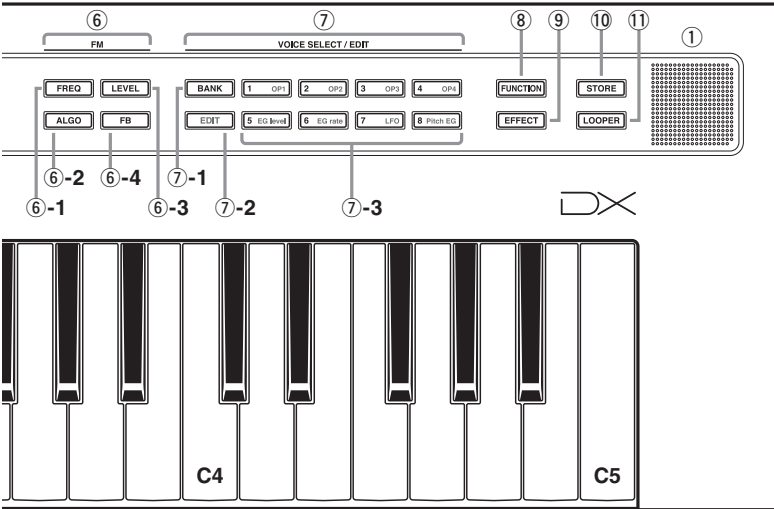
④ [OCTAVE](オクターブ)スライダー

鍵域を1オクターブ単位で切り替えます。たとえば、「+」にすると、鍵盤でC3(上のイラスト参照)を弾いたときにC4の音が出ます。「++」(2オクターブ上)、「+」(1オクターブ上)、「0」(元のピッチ)、「-」(1オクターブ下)、「--」(2オクターブ下)から選びます。

⑤ DATA ENTRY(データエントリー)セクション

⑤-1. タッチ式スライダーまたはスイッチ

4本のスライダーまたはスイッチがあります。フリックやタップ、長押しすることで、値を変えたり、設定を切り替えたりします。設定する項目は右側の画面に表示されます。また、マルチタッチに対応しているため、4本のスライダーを同時に操作することができます。



● 基本動作

フリック

スライダーにふれた指をすばやく払う動作です。フリックする速さによって、値を少しずつ変化させたり、大きく変化させたりすることができます。人差し指でのフリックをおすすめします。

上へフリック

下へフリック

**タップ
長押し**

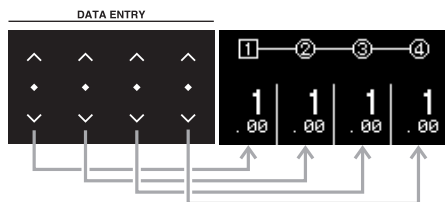
スライダーにすばやく1回タッチする動作です。タップしたまま長押しすると、指を離すまで値が変化し続けます。(オートリピート機能)



上をタップ
上を長押し

下をタップ
下を長押し

スイッチを
タップ

スライダーを操作すると 画面に表示されます。



種類	設定	使いかた
	数値	上へフリックすると値が大きくなり、下へフリックすると値が小さくなります。すばやくフリックすると大きく値が変わり、ゆっくりフリックすると少しずつ値が変わります。 「▲」または「▼」をタップすると、値が1ずつ変わります。 「▲」または「▼」を長押しすると、連続して値が変わります。
	オンとオフタイプ選択	「◆」をタップするとオンとオフやタイプなど切りかわります。

⑤-2. 液晶ディスプレイ(表示画面)

設定を表示します。

表示画面はタッチしても反応しません。

設定画面が複数ページある場合には、「●○○○」(全4ページの1ページ目)のように表示されます。

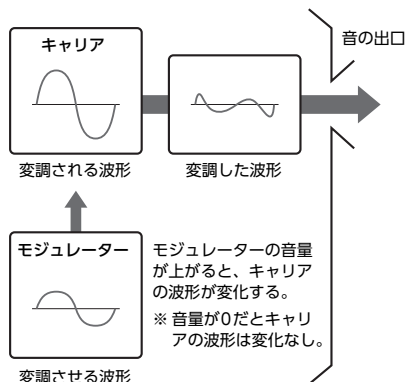
⑥ FMセクション

FM音源の代表的なパラメーターを使って音を変化させます。

FMセクションのボタンを押すと点灯し、その項目の設定ができる状態になります。ボタンを押してから設定したい項目のDATA ENTRYスライダーを動かして、設定を変更します。

FM音源とは

FM音源の「FM」とは「Frequency Modulation」(フリケンシーモジュレーション)のことで、周波数を変調するという意味です。音のもととなる波形の周波数を別の波形を使って変調させることで、新しい波形を作りだす方式です。波形を発生させる装置は「オペレーター」と呼び、reface DXではオペレーターを4つ使います。変調される側のオペレーターを「キャリア」、変調する側のオペレーターを「モジュレーター」と呼び、4つのオペレーターはキャリアとモジュレーターのどちらにも使うことができます。オペレーターの組み合わせを変えたり、さらにレベルやエンベロープなどの他の要素を調整することで、音に複雑な変化を与えることができます。



⑥-1. [FREQ](フリケンシー) ボタン

オペレーターのフリケンシー (周波数) 設定画面を表示します。また、ここでは一定以上の速さでフリックすると値が最寄りの整数値に設定されます。例えば、9.29の場合、上に素早くフリックすると10.00になります。



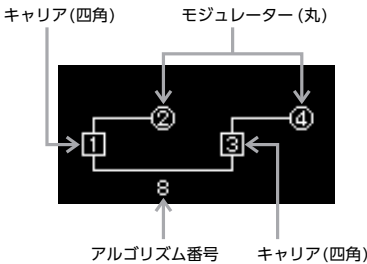
フリケンシーは「RATIO」と「FIXED」から選ぶことができます。設定のしかたについては「リファレンスマニュアル」(電子マニュアル)を参照してください。

注記

FIXEDモードにてキャリアに低い周波数を設定すると、スピーカーをこわす原因となります。ご注意ください。

⑥-2. [ALGO](アルゴリズム) ボタン

アルゴリズム設定画面を表示します。4つのオペレーターをどのように組み合わせるかを決めます。12種類のアルゴリズムから選びます。



⑥-3. [LEVEL](レベル) ボタン

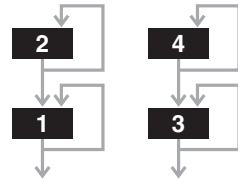
オペレーターのレベル設定画面を表示します。キャリアでは音量、モジュレーターでキャリアを変調する量を調節します。



⑥-4. [FB](フィードバック) ボタン



フィードバック設定画面を表示します。オペレーターから発生した信号のうち、一定量をもう一度オペレーターに戻すことで、波形を変化させます。

reface DXでは、すべてのオペレーターにフィードバックを設定することができます。たとえば、アルゴリズム8番を選び、すべてのオペレーターにフィードバックをかけるると以下ようになります。



フィードバックレベル



中間地点から上へスライダを動かすとフィードバックのタイプが  鋸歯状波となり、フィードバックレベルが上がります。フィードバックレベルが上がると、波形は正弦波から鋸歯状波に変化し、最大値になると波形は完全な鋸歯状波になります。中間地点から下へスライダを動かすとタイプが  矩形波となり、フィードバックレベルが上がります。フィードバックレベルが上がると、波形は正弦波から矩形波に変化し、最大値になると波形は完全な矩形波になります。中間地点ではフィードバックレベルが「0」になり、フィードバックがかからず、正弦波になります。

⑦ VOICE SELECT/EDIT

(ボイスセレクト/エディット)セクション

バンク番号(1~4)とボイス番号(1~8)を切り替えて、計32種類のボイスを呼び出します。

バンク番号(1~4) ボイス番号(1~8)



⑦-1. [BANK](バンク)ボタン

バンク番号を切り替えます。ボタンを押すと、1~4の番号が切り替わります。

⑦-3. [1]~[8]ボタン

選んだバンクにある、8種類のボイスを切り替えます。

⑦-2. [EDIT](エディット)ボタン

選んだボイスのエディットモードに入ります。エディットモードでは、EGレベルやLFOなど、⑦-3にあるボタンのパラメーターの設定を行なうことで、音色の編集ができます。

NOTE

[FUNCTION] ボタンを押してジョブ画面を開き、ボイスイニシャライズを行なうと、正弦波が鳴るパラメーター設定の状態から音色の編集ができます。

⑦-3. [OP1]~[OP4]、[EG level]、 [EG rate]、[LFO]、[Pitch EG]ボタン

[OP1]~[OP4]: 番号に相当するオペレーターの設定画面を表示します。オペレーターごとに複数の設定画面があり、ボタンをくり返し押すとページが切り替わります。

[EG level]: オペレーターのEGレベルの設定画面を表示します。設定画面が複数ページあり、ボタンをくり返し押すとオペレーターが切り替わります。

[EG rate]: EGレートの設定画面を表示します。設定画面が複数ページあり、ボタンをくり返し押すとオペレーターが切り替わります。

[LFO]: LFOの設定画面を表示します。設定画面が複数ページあり、ボタンをくり返し押すとページが切り替わります。

[Pitch EG]: ピッチEGの設定画面を表示します。設定画面が複数ページあり、ボタンをくり返し押すとページが切り替わります。

⑦-2 [EDIT] ボタンと⑦-3 [OP1]~[Pitch EG] ボタンについての詳細は、「リファレンスマニュアル」(電子マニュアル)をご参照ください。

⑧ [FUNCTION](ファンクション)ボタン

ボタンを押すとLEDが点灯し、ファンクションモードに入ります。この状態でボタンを押すとページが切り替わります。他のボタンを押すとLEDが消えて、ファンクションモードを終了します。ファンクションモードでは、ボイスパラメーター、MIDI、システム、ジョブの4つの設定を行ないます。

● 1ページ目：ボイスパラメーター設定画面

ボイスごとに音の鳴りかたを設定します。
[STORE](ストア)ボタンを押してボイスの保存をすると、ボイスパラメーター設定も保存されます。



TP (トランス ポーズ)	-24～+24	半音単位で移調します。
MONO/ POLY (モノ/ポリ)	POLY (ポリ)	発音モードをポリに設定します。
	MONO-FULL (モノ-フル)	発音モードをモノに設定します。常にポルタメントがかかります。
	MONO-LGATO (モノ-レガート)	発音モードをモノに設定します。レガート奏法のみポルタメントがかかります。
PORTA (ポルタメント タイム)	0～127	ポルタメントタイムを設定します。
PB (ピッチベン ドレンジ)	-24～+24	ピッチバンドの範囲を半音単位で設定します。

● 2ページ目：MIDI設定画面



TR CH (MIDI送信 チャンネル)	1～16、 off	MIDI送信チャンネルを設定します。 オフにすると送信されません。
RV CH (MIDI受信 チャンネル)	All、 1～16	MIDI受信チャンネルを設定します。 ALLにするとすべてのチャンネルで受信します。
CONT- ROL (コントロール)	ON、off	MIDIコントロールを使う、使わないを切り替えます。 MIDIコントロールをオンにすると、FMセクション([FREQ]ボタン、[LEVEL]ボタン、[ALGO]ボタン、[FB]ボタン)の設定を変える操作をしたときにreface特有のコントロールチェンジメッセージを送信します。またこれらのメッセージを受信するとFMセクションの設定が変更されます。
LOCAL (ローカルコ ントロール)	ON、off	ローカルコントロールを切り替えます。 refaceの内部音源と鍵盤を切り離す(オフ)かつなげる(オン)かを設定します。

● 3ページ目：システム設定画面



AUTO P.OFF (オートパワーオフ)	ON, off	オートパワーオフの有効、無効を切り替えます。
SP (スピーカー出力)	ON, off	スピーカーから音を出す、出さないを切り替えます。
SUS-TAIN (サステイン)	FC3, FC4/5	接続するサステインペダルの種類を選びます。ハーフダンパー機能付きのペダルを使いたいときは「FC3」を選びます。
CONT-RAST (コントラスト)	0~63	画面のコントラストを調整します。

● 4ページ目：ジョブ画面



EDIT RECAL (エディットリコール)	現在選んでいるボイスを、編集した一番最後の状態に戻します。ボイスエディット中に他のボイスに移動してしまい、元に戻したいときなどに使います。
VOICE INIT (ボイスイニシャルイズ)	選んだボイスを初期状態(正弦波)にします。
VOICE RECALL (ボイスリコール)	現在選んでいるボイスを工場出荷時の状態に戻します。
FCTRY RESET (ファクトリーリセット)	製品の設定を工場出荷時の状態に戻します。

⑨ [EFFECT](エフェクト)ボタン

エフェクト設定画面を表示します。2系統のインサージョンエフェクトを設定できます。画面が表示された状態でボタンを押すと、エフェクト1とエフェクト2の画面が切り替わります。

例) エフェクト1設定画面



スイッチ スライダー

左のスイッチをタップしてエフェクトの種類を選ぶと、画面右側にそのエフェクトで設定できる項目が表示されます。スライダーをフリックまたはタップして、各項目を調整します。

● エフェクトタイプ

THRU	THRU	エフェクトがかかりません。
DIST	DIST	ディストーションがかかります。DRIVEとTONEを調整します。
T.WAH	T.WAH	タッチワウがかかります。SENSとREZを調整します。
CHO	CHO	コーラスがかかります。DEPTHとRATEを調整します。
FLA	FLA	フランジャーがかかります。DEPTHとRATEを調整します。
PHA	PHA	フェーザーがかかります。DEPTHとRATEを調整します。
DLY	DLY	ディレイがかかります。DEPTHとTIMEを調整します。
REV	REV	リバーブがかかります。DEPTHとTIMEを調整します。

⑩ [STORE](ストア)ボタン

ストア(保存)設定を表示します。現在の設定の保存先を選び、名前を付けて保存します。ボイスを保存すると、保存先に入っていたプリセットボイスは上書きされます。プリセットボイスに戻りたいときは、ボイスリコール(22ページ)またはファクトリーリセット(22ページまたは40ページ)を行いません。

ボタンを押すと、ストア画面が表示されます。

●ストア画面



name		ストアネーム画面に切り替わります。
STORE TO	Bank 1-1~4-8	保存先を選びます。 NOTE 保存先は[BANK]ボタンや[1]~[8]ボタンでも選べます。
	CHECK	保存先のボイスの確認をします。 スイッチをタップしてCHECKと[←]を切り替えます。 CHECK: 鍵盤を弾くと、保存しようとしているボイスが鳴ります。 [←]: 鍵盤を弾くと、STORE TO Bankで保存先に選んだバンクに入っているボイスが鳴ります。
STORE		ボイスの保存を行いません。 スイッチをタップすると、確認の画面が表示されます。  [YES]のスイッチをタップすると保存されます。[NO]のスイッチをタップすると、保存せずにストア画面に戻ります。

●ストアネーム画面



store	ストア画面に戻ります。
←	カーソルを左へ動かします。
ABC	スイッチをタップすると、ネーム入力画面が表示されます。  アルファベット大文字、小文字、記号 スライダーでフリックまたはタップして文字を選び、新しいボイス名を入力します。
→	カーソルを右へ動かします。

⑪ [LOOPER](ルーパー)ボタン

フレーズルーパー画面を表示します。MIDIルーパーを操作します。録音したループフレーズを複数重ねて、ループ再生します。最大で2000音または120 BPMで10分のループフレーズを一時的に録音することができません。

DX

フレーズルーパーを使う

フレーズルーパーを使ってループフレーズを鳴らしてみましょう。フレーズルーパーではフレーズを重ねて録音する「オーバーダビング」と、くり返し再生する「ループ再生」をします。reface DXに搭載されているフレーズルーパーでは、録音した後でテンポを変えたり、FMセクションやVOICE SELECT/EDITセクションを操作することで音の変化を楽しむことができます。

フレーズルーパーを使うときは、[LOOPER]ボタンを押します。

フレーズルーパーで遊ぶ

フレーズルーパーでは、最大2000音、またはBMP120のテンポで10分まで録音することができます。

NOTE

本体の電源が切れると、ループフレーズは消去されます。

■ループフレーズを最初から録音する

1. フレーズルーパーを起動します。

- ① [LOOPER]ボタンを押します。
フレーズルーパーの画面が表示されます。



[GUIDE]のスイッチをタップすると、ガイド音を鳴らす、鳴らさないの設定ができます。

2. 1つ目のフレーズを録音します。

- ① DATA ENTRYの「REC」スイッチをタップします。



フレーズルーパーが録音待機状態になり、ガイド音が鳴り、スライダーと[LOOPER]ボタンが点滅します。



ガイド音は現在の音色が鳴ります。スライダーやボタンで音色を変化させると、ガイド音も変わります。

テンポは、[TEMPO]スライダーを動かすと調節できます。

- ② 鍵盤でフレーズを弾きます。
1つ目のフレーズを録音するときは、弾き始めた音から録音が始まります(キーオンスタート)。
フレーズ先頭に無音部分を入れたい場合には、鍵盤を弾く前に「REC START」をタップするとそのタイミングで録音が始まります。
録音中はテンポに合わせてスライダーと[LOOPER]ボタンが点滅し、拍数がカウントアップして表示されます。



- ③ 録音を終わりたいタイミングで「REC STOP」をタップします。



録音が終わりと、録音したフレーズがループ再生されます。ループ再生のとき、ガイド音は鳴りません。

ループ再生中は、設定したテンポに合わせてスライダーや[LOOPER]ボタンが点滅し、録音した拍数に対する現在の拍が表示されます。また、ループ再生中は、画面上部のプログレスバーで現在位置を確認することができます。



3. オーバーダビングします。

オーバーダビングでは、「REC」をタップするとそのタイミングで録音が始まります。オーバーダビングのとき、ガイド音は鳴りません。

NOTE

1つ目のフレーズの再生を停止すると、フレーズルーパーが録音待機状態になります。その状態で「REC START」をタップすると、キーオンスタートで録音が始まります。

- ① 「REC」 または 「REC START」 をタップします。
- ② 再生されるフレーズに合わせて、オーバーダビングしたいフレーズを鍵盤で弾きます。
- ③ 録音を終わりたいタイミングで「REC STOP」をタップします。
録音が終わりと、重ねて録音したフレーズがループ再生されます。

必要に応じてオーバーダビングをくり返します。

NOTE

- 2000音を超えると、画面に「Looper Memory Full」と表示され、「REC」にしても録音されなくなります。
- 最大同時発音数を超えると、発音タイミングの古いものを消して新しい音を鳴らします。

● ループフレーズの音色を変化させます。

録音したループフレーズを鳴らしながら、FMセクションやVOICE SELECT/EDITセクションを操作することで音の変化を楽しむことができます。他の画面にいても、ループフレーズの再生中は、[LOOPER]ボタンは点滅します。

● ループフレーズを止めます。

● 停止する

「STOP」スイッチをタップします。フレーズのループ再生が止まります。



また、一度停止したフレーズを再生したいときは、「PLAY」スイッチをタップします。録音されているフレーズがフレーズの先頭からループ再生されます。



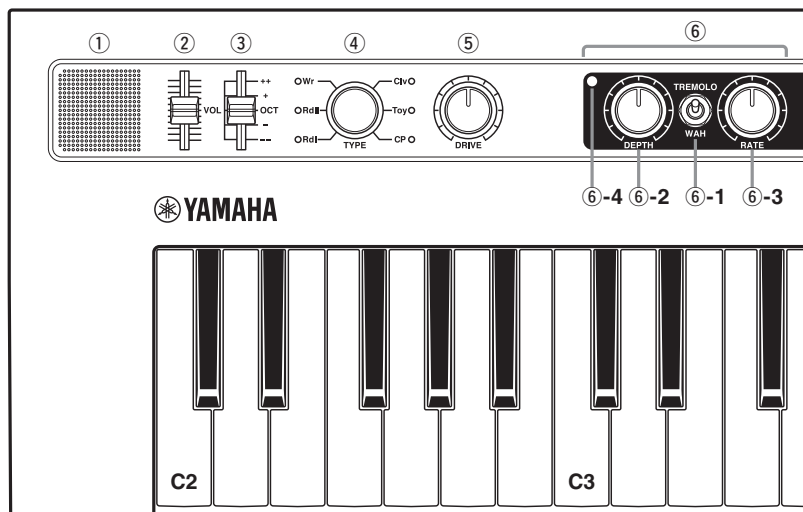
ループフレーズを消去する

録音されたループフレーズを消去するときは、ループフレーズの再生を止めた状態で「CLEAR」スイッチをタップします。



録音されているフレーズがすべて消去されます。

フロントパネルの各部のはたらき



① 内蔵スピーカー

本体の音が出力されます。内蔵スピーカーから音を出したくない場合は、電源起動時に鍵盤のD2を押しながら電源を入れます。詳しくは41ページをご参照ください。ヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

② [VOL](ボリューム)スライダー

楽器全体の音量を調節します。スライダーを上へ動かすと、内蔵スピーカー、[R]/[L]/[MONO]端子、[PHONES]端子からの出力が大きくなります。

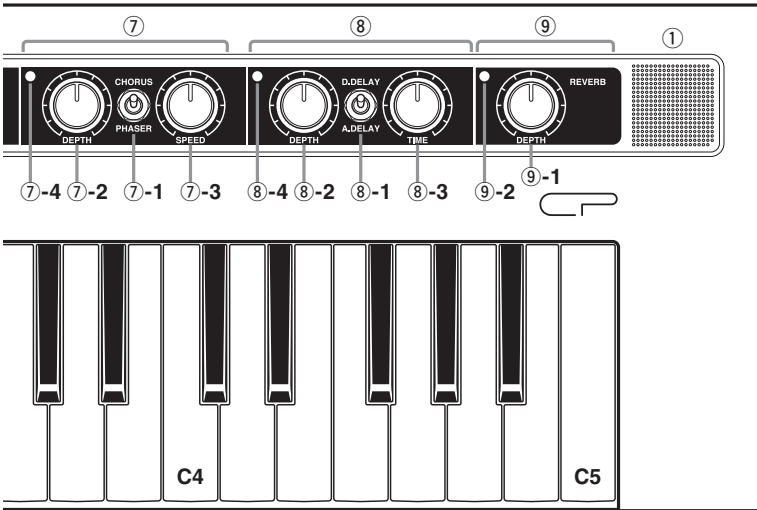
③ [OCT](オクターブ)スライダー

鍵域を1オクターブ単位で切り替えます。たとえば、「+」にすると、鍵盤でC3(上のイラスト参照)を弾いたときにC4の音が出ます。「++」(2オクターブ上)、「+」(1オクターブ上)、「OCT」(元のピッチ)、「-」(1オクターブ下)、「--」(2オクターブ下)から選びます。

④ [TYPE](タイプ)ノブ

音色タイプを選びます。

Rdl	1970年前半の代表的なエレクトリックピアノの音色です。暗めで太く、伸びる音が特徴です。フェーザーエフェクトとの相性が良く、70年代のジャズ、R&B、ソウルなどで広く使われました。
Rdll	1970年後半の代表的なエレクトリックピアノの音色です。Rdlよりもハイファイで明るい音が特徴です。コーラスやフェーザーエフェクトとの相性が良く、80年代ポップスのバラード曲やフュージョンを中心によく使われました。
Wr	1960年代後半に登場した特徴的なエレクトリックピアノの音色です。金属の共振板によるやわらかいアタックと速く減衰するディケイが特徴です。トレモロエフェクトをかけることが多く、70年代のポップス、R&B、ソウルなどでよく使われました。



Clv	1970年代に登場した、打弦式の電気キーボードの音色です。エレキギターのような音の特徴です。ワウエフェクトとの相性が良く、70年代のファンクやロックを中心に使われました。
Toy	1970年代のビンテージトイピアノの音色です。きらびやかでゆらぎのある音と、トイピアノ特有のカタカタした打鍵音が特徴です。元々は子供向けの玩具でしたが、その独特な音色から近年ではポピュラー音楽でも使用されることがあります。
CP	1970年代後半に登場したYAMAHA CP80の音色です。コンプレッションされたような素早いアタックと独特の倍音感が特徴です。コーラスエフェクトとの相性がよく、80年代のポップス、ロック、ジャズ、フュージョンなどで使われました。

⑤ [DRIVE](ドライブ)ノブ

音を歪ませる効果をかけます。ギターアンプや古いラジオから鳴らすような音になります。右に回すほど歪みが強くなり、音が明るくなります。ノブを一番左まで回すと効果はかかりません。

⑥ TREMOLO/WAH(トレモロ/ワウ)

reface CPでは4系統のインサージョンエフェクトが直列に接続されています。TREMOLO/WAHでは、トレモロまたはワウを選びます。

● TREMOLO(トレモロ)

音量を周期的に変化させます。

[TYPE]がRdI、RdII、CPのとき：
音をステレオで左右に揺らします。

[TYPE]がWr、Clv、Toyのとき：
音量を上下させて音を揺らします。

● WAH(ワウ)

入力する音量によって、フィルターの周波数を変化させます。音色が周期的に変化します。

⑥-1. [TREMOLO/WAH]スイッチ

スイッチは3段階で、上がトレモロ、下がワウ、中央がスルーになります。

トレモロまたはワウを選ぶと⑥-4のランプが点灯し、スルーのときはランプが消灯します。

⑥-2. [DEPTH](デプス)ノブ

ノブを右に回すと変化が大きくなります。

●トレモロの場合

[TYPE]がRdl、RdlI、CPのとき：

音を左右に揺らす深さを調整します。

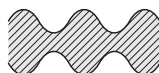
[TYPE]がWr、Clv、Toyのとき：

音量を揺らす深さを調整します。

浅いトレモロ



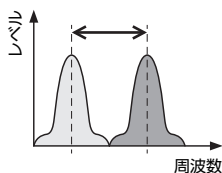
深いトレモロ



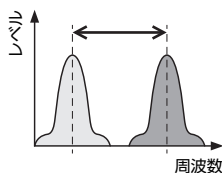
●ワウの場合

ワウフィルターの变化の感度を調整します。

浅いワウ



深いワウ



⑥-3. [RATE](レート)ノブ

ノブを右に回すと変化が大きくなります。

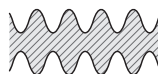
●トレモロの場合：

揺れの速さを調整します。

遅いトレモロ



速いトレモロ

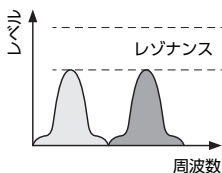


●ワウの場合

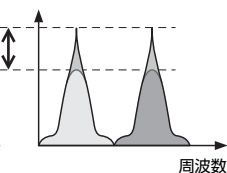
レゾナンスの値のオフセット値を調整します。

音に独特のクセが付きます。

クセを付けない



強いクセを付ける



⑦ CHORUS/PHASER(コーラス/フェーザー)

コーラスとフェーザーから選びます。

●CHORUS(コーラス)

複数の音源が同時に鳴っているような、音に奥行きと厚みを付加するエフェクトです。広がりを感じさせます。

●PHASER(フェーザー)

位相(フェイズ)をずらして原音とミックスすることで、シュワシュワといった独特のトーンとうねりのあるサウンドを作ります。

⑦-1. [CHORUS/PHASER]

(コーラス/フェーザー)スイッチ

スイッチは3段階で、上がコーラス、下がフェーザー、中央がスルーになります。

コーラスまたはフェーザーを選ぶと⑦-4のランプが点灯し、スルーのときはランプが消灯します。

⑦-2. [DEPTH](デプス)ノブ

コーラスまたはフェーザーのかかり具合を調整します。ノブを右に回すほど深くかかります。

⑦-3. [SPEED](スピード)ノブ

音のゆらぎの速さを調整します。右に回すほど速くなります。

⑧ D.DELAY/A.DELAY**(デジタルディレイ/アナログディレイ)**

デジタルディレイとアナログディレイから選びます。

入力音を時間的に遅らせて発音させ、やまびこのような効果を作ります。空間の奥行きや広がりを作ったり、音を太くするなど、さまざまな使い方があります。

● D.DELAY(デジタルディレイ)

デジタルディレイは、アナログディレイに比べてディレイ音が正確にくっきりと返ってきます。

● A.DELAY(アナログディレイ)

アナログならではのあたたかいディレイ音をシミュレートしています。

⑧-1. [D.DELAY/A.DELAY]スイッチ

スイッチは3段階で、上がデジタルディレイ、下がアナログディレイ、中央がスルーになります。

デジタルディレイまたはアナログディレイを選ぶと⑧-4のランプが点灯し、スルーのときはランプが消灯します。

⑧-2. [DEPTH](デプス)ノブ

ディレイのかかり具合を調整します。ノブを右に回すほどかかり具合が深くなります。

⑧-3. [TIME](タイム)ノブ

ディレイの長さを調整します。ノブを右に回すほど長くなります。

⑨ REVERBセクション

複雑な残響音を人工的に作り、空間の広がりを見現します。

リバーブが有効なときは⑨-2のランプが点灯し、無効(スルー)のときはランプが消灯します。

⑨-1. [DEPTH](デプス)ノブ

リバーブのかかり具合を調整します。ノブを右に回すほど深くかかります。ノブを一番左まで回すと効果がかかりません。

おすすめの設定例

reface CPでおすすめの設定です。

■ Rd I



70年代ポップス、ソウル、フュージョンの音楽に最適なセッティングです。お好みによって、DRIVEを上げて歪ませたり、PHASERのDEPTHを少し深めの6~7ぐらいの位置にしたり、TREMOLOをオンにしてDEPTH 5、RATE 5ぐらいにしてもよいでしょう。

■ Rd II



80年代のバラードなどに最適なウェットなセッティングです。お好みによって、CHORUSのDEPTHとSPEEDの設定を変更してもよいでしょう。

■ Wr



70年代のポップスなどの演奏に最適なセッティングです。お好みでA.DELAYをオンにし、DEPTH5、TIME1.5ぐらいにして短い残響を加えてもよいでしょう。

■ Clv



70年代のファンクやロックなどの演奏に最適なセッティングです。お好みによりDRIVEを上げて、ディストーションギターのようにしてもよいでしょう。TREMOLO/WAHをTREMOLOに変えたり、REVERBを少しかけてみたりしてもよいかもしれません。

■ Toy



トイピアノはシンプルな設定で使用するのがよいでしょう。DRIVEはお好みで5や10にして、古いラジオ風の音にしてもよいでしょう。

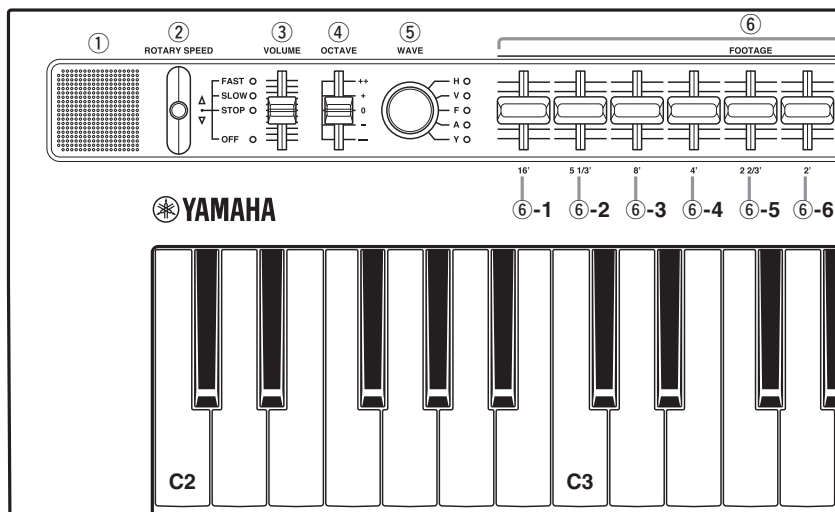
■ CP



80年代のポップスなどに最適なセッティングです。薄めのコーラスの設定です。お好みで、DRIVEを5ぐらいまで上げて高域を目立たせてもよいです。

また、お好みでD.DELAYをオンにし、DEPTH1.5、TIME1.5ぐらいにしてもよいでしょう。

フロントパネルの各部のはたらき



① 内蔵スピーカー

本体の音が出力されます。内蔵スピーカーから音を出したくない場合は、電源起動時に鍵盤のD2を押しながら電源を入れます。詳しくは41ページをご参照ください。ヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

② [ROTARY SPEED](ロータリースピード)レバー

ロータリースピーカーの回転速度を切り替えます。レバーを上または下へ動かすと設定が切り替わります。「FAST」(回転が速い)、「SLOW」(回転が遅い)、「STOP」(回転しない)、「OFF」(エフェクトをかけない)から選びます。

例)

「SLOW」から「FAST」に変えたいとき：
上へ1回動かす。

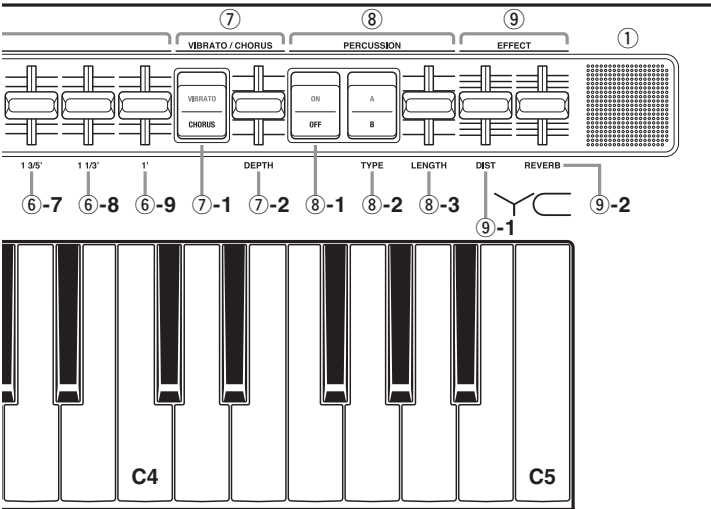
「SLOW」から「OFF」に変えたいとき：
下へ2回動かす。

③ [VOLUME](ボリューム)スライダー

楽器全体の音量を調節します。スライダーを上へ動かすと、内蔵スピーカー、[R]/[L]/[MONO]端子、[PHONES]端子からの出力が大きくなります。

④ [OCTAVE](オクターブ)スライダー

鍵域を1オクターブ単位で切り替えます。たとえば、「+」にすると、鍵盤でC3(上のイラスト参照)を弾いたときにC4の音が出ます。「++」(2オクターブ上)、「+」(1オクターブ上)、「0」(元のピッチ)、「-」(1オクターブ下)、「--」(2オクターブ下)から選びます。



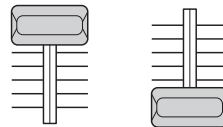
⑤ [WAVE](ウェーブ)ノブ

オルガンの音色タイプを選びます。

H	1960年代の代表的な電気オルガンの音色です。正弦波特有のシンプルであたたかい音が特徴です。ロック、ポップス、ジャズなど幅広い音楽で使われていました。
V	1960年代のトランジスタオルガンの音色です。矩形波に近い倍音成分を持ち、抜けの良い音が特徴です。サイケデリックロックやスカなどでよく使われていました。
F	1960年代のトランジスタオルガンの音色です。鋸歯状波をプーストさせた太い音の特徴です。60年代のポップスや、90年代のオルタナティブポップなどで使われていました。
A	1970年代の国産トランジスタオルガンの音色です。シンセサイザーの鋸歯状波のような、きらびやかなサウンドが特徴です。
Y	1972年に登場したYAMAHAのトランジスタオルガンの音色です。矩形波に近い倍音成分を持ち、抜けのよい高域とディストーションを上げた時の激しい歪みが特徴です。

⑥ FOOTAGE(フッテージ)セクション

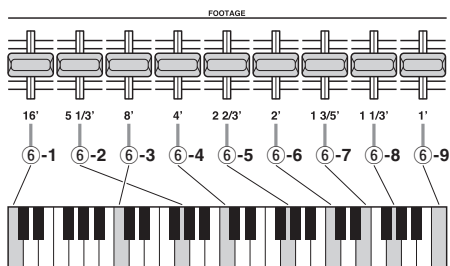
ビンテージオルガンのように、スライダーを下へ動かして使います。それぞれのスライダーを動かして音の要素を組み合わせることで、好みのオルガンサウンドを作ることができます。



NOTE

すべてのFOOTAGEスライダーの位置を完全に上げるとオルガン音色が鳴らなくなります。

各スライダーを動かして鳴る音は以下のとおりです。



	スライダー	鳴る音
⑥-1	16'	8度下*
⑥-2	5 1/3'	5度上
⑥-3	8'	基音
⑥-4	4'	8度上
⑥-5	2 2/3'	12度上
⑥-6	2'	15度上
⑥-7	1 3/5'	17度上
⑥-8	1 1/3'	19度上
⑥-9	1'	22度上

* [OCTAVE]スライダーを下げると、16'のピッチが低くなりすぎて内蔵スピーカーから音が鳴らなくなることがあります。

⑦ VIBRATO/CHORUS(ビブラート/コーラス)セクション

音にゆらぎの効果をかけることができます。

⑦-1. [VIBRATO/CHORUS]

(ビブラート/コーラス)スイッチ

ビブラートとコーラスを切り替えて、異なるタイプのゆらぎの効果をかけます。使いたいほうを押します。

⑦-2. [DEPTH](デプス)スライダー

ビブラートまたはコーラスのかかり具合を調節します。スライダーを一番下になると、ビブラート/コーラスがオフになります。

⑧ PERCUSSION(パーカッション)セクション

オンにすると音の立ち上がりにはアクセントを付けることができます。FOOTAGEスライダーの音量がすべて0(一番上)のときは、パーカッションのみが鳴ります。

[A] と [B] ではパーカッションのピッチが変わります。

NOTE

WAVEが [H] のとき、PERCUSSIONをONにすると、FOOTAGE[1']スライダーを下げててもFOOTAGE[1']の音が鳴らなくなります。また、Hタイプの音色のPERCUSSION音は、レガートで弾くと音量が減衰していきます。

⑧-1. [ON/OFF](オン/オフ)スイッチ

パーカッションのオンとオフを切り替えます。オフを押すとパーカッションが止まります。

⑧-2. [TYPE](タイプ)スイッチ

パーカッションのピッチを切り替えます。タイプAとBから、使いたいほうを押します。

⑧-3. [LENGTH](レングス)スライダー

パーカッション音が減衰する時間の長さを調節します。

⑨ EFFECT(エフェクト)セクション

エフェクトをかけます。スライダーを一番下まで動かすとエフェクトがかかりません。

⑨-1. [DIST](ディストーション)スライダー

ディストーション(歪み)がかかります。

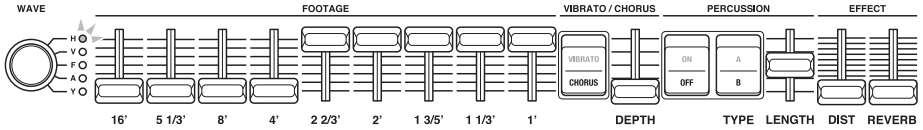
⑨-2. [REVERB](リバーブ)スライダー

リバーブ(残響)がかかります。

おすすめの設定例

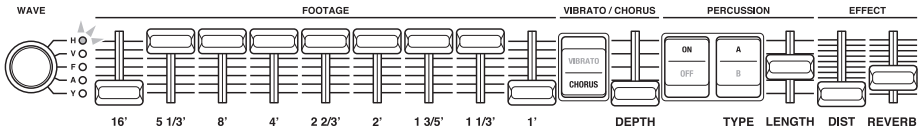
reface YCでおすすめの設定です。

■Hタイプ1



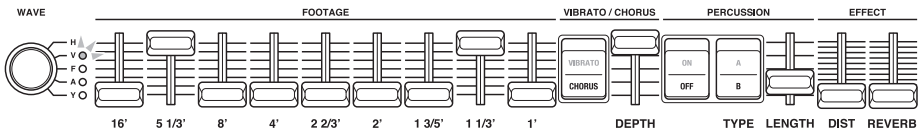
ロックからジャズまで幅広く対応できるセッティングです。お好みによって[4']を上へ動かすとおとなしい音になり、[2 2/3]、[2]、[1 3/5]、[1 1/3]、[1]を下へ動かすと、より明るくロックっぽい音色になります。ROTARY SPEEDはSLOWかFASTに、DISTとREVERBはお好みでお使いください。

■Hタイプ2



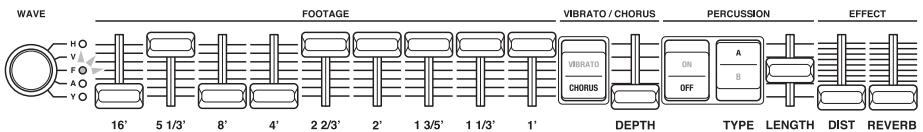
ボサノバやレゲエなどの音楽でよく使われるセッティングです。Hタイプのオルガンには、パーカッションをオンにすると[1]の音が出ないという特徴があります。演奏中にパーカッションのオンとオフを切り替えることで[1]の音を出し、独特の演奏法を使います。

■Vタイプ



サイケデリックロックなどに最適なセッティングです。DISTを上げて音を歪ませてもよいでしょう。

■Fタイプ



ビンテージな雰囲気を持ったオルタナティブロックバンドの演奏に最適なセッティングです。DISTを上げて音を歪ませてもよいでしょう。

外部機器と接続する

refaceとMIDI機器(MIDIキーボード、音源モジュール)を接続して、以下のように演奏の機能を拡張することができます。

- MIDIキーボードからrefaceを演奏する
- refaceで音源モジュールを鳴らす
- reface CSとreface DXをつなげてフレーズルーパーを同期させる

また、コンピューターと接続することにより、以下のように演奏を録音、再生したり、演奏の機能を拡張することができます。

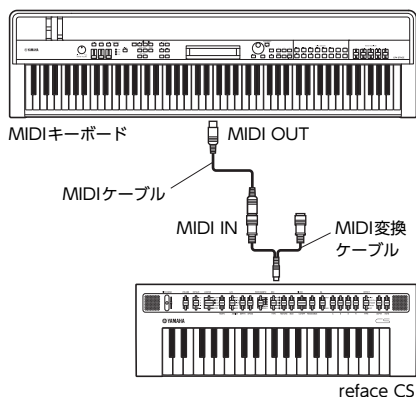
- refaceの演奏をMIDIデータとしてDAWソフトウェアに録音する
- DAWソフトウェアで録音データを再生してrefaceを鳴らす
- refaceからソフトシンセを鳴らす

ここでは、機器同士の接続方法と設定について、reface CSのイラストを使って説明します。

MIDI機器と接続する

■ MIDIキーボードからrefaceを演奏する

- ① MIDIキーボードのMIDI OUT端子とrefaceのMIDI IN端子を接続します。



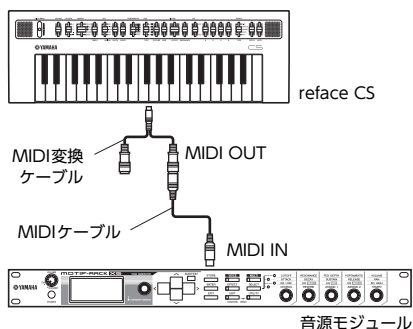
- ② MIDIキーボードを演奏すると、refaceが鳴ります。

■ refaceで音源モジュールを鳴らす

- ① ローカルコントロールをオフ、MIDIコントロールをオフにします。設定方法については「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。refaceから外部音源を鳴らす場合は、送信側であるrefaceの送信チャンネルと、受信側となる音源モジュールの受信チャンネルを合わせます。

refaceではデフォルトの送信チャンネルが「1」に設定されています。reface DXのみ、[FUNCTION]ボタンで送信チャンネルを変えることができます。音源モジュールの受信チャンネルの設定については、お使いの音源モジュールの取扱説明書をご参照ください。

- ② refaceのMIDI OUT端子と音源モジュールのMIDI IN端子を接続します。

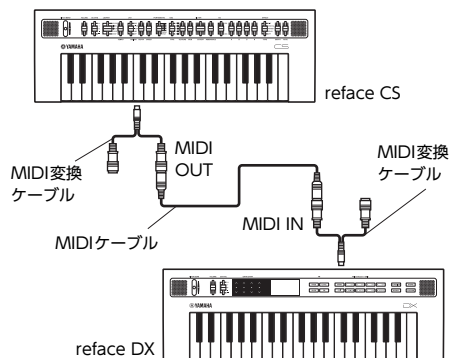


- ③ refaceを演奏すると、音源モジュールの音色が鳴ります。

■reface CSとreface DXをつなげてフレーズルーパーを同期させる

たとえば、MIDIケーブルでreface CSとreface DXをつなげると、reface CSのフレーズルーパーを操作して、同時にreface DXのフレーズルーパーを鳴らすような使いかたができます。

- ① 操作するreface(ここではreface CS)の送信チャンネルをオフにします。設定方法については「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。
- ② reface CSとreface DXでループフレーズを作り、「STOP」でフレーズルーパーを停止します。
- ③ 操作するreface(ここではreface CS)のMIDI OUT端子と、同時に鳴らしたいreface(ここではreface DX)のMIDI IN端子を接続します。



- ④ reface CSのフレーズルーパーを「PLAY」に切り替えるとreface DXのフレーズルーパーも同じテンポで同時に再生されます。2つのフレーズルーパーを同時に使うことで、さらに複雑なループフレーズを鳴らすことができます。

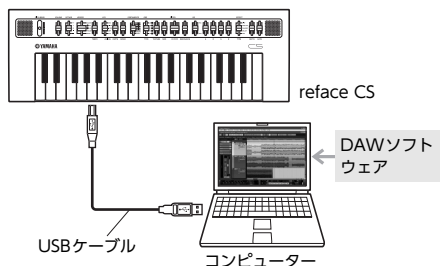
コンピューターと接続する

■refaceの演奏をMIDIデータとしてDAWソフトウェアに録音する

- ① ローカルコントロールをオフ、MIDIコントロールをオンにします。設定方法については「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。
- ② USBケーブルを使って、refaceとコンピューターを接続します。

NOTE

- [USB]端子を使う前に、「[[USB]端子ご使用時の注意」(39ページ)をお読みください。
- コンピューターでrefaceが認識されないなどの不具合が発生した場合には、「ヤマハUSB-MIDIドライバー」(39ページ)をご覧ください。



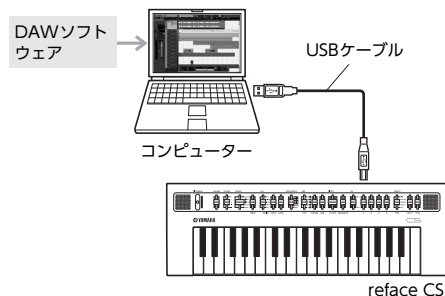
- ③ DAWソフトウェアを録音状態にし、refaceを演奏します。

■ DAWソフトウェアで録音データを再生してrefaceを鳴らす

- ① MIDIコントロールをオンにします。設定方法については「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。
- ② USBケーブルを使って、コンピューターとrefaceを接続します。

NOTE

- [USB]端子を使う前に、「[USB]端子ご使用時の注意」(39ページ)をお読みください。
- コンピューターでrefaceが認識されないなどの不具合が発生した場合には、「ヤマハUSB-MIDIドライバー」(39ページ)をご覧ください。



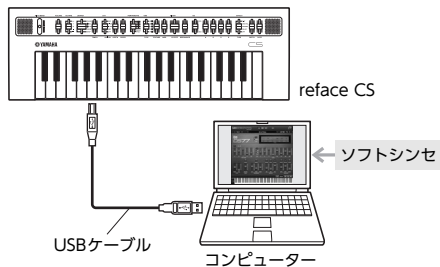
- ③ DAWソフトウェアでMIDIデータを再生します。

■ refaceからソフトシンセを鳴らす

- ① ローカルコントロールをオフ、MIDIコントロールをオフにします。設定方法については「鍵盤設定一覧」(41ページ)をご覧ください。
- ② USBケーブルを使って、refaceとコンピューターを接続します。

NOTE

- [USB]端子を使う前に、「[USB]端子ご使用時の注意」(39ページ)をお読みください。
- コンピューターでrefaceが認識されないなどの不具合が発生した場合には、「ヤマハUSB-MIDIドライバー」(39ページ)をご覧ください。



- ③ コンピューターでソフトシンセを立ち上げて、refaceの鍵盤を弾きます。

NOTE

DAWソフトウェアの中に立ちあげられたソフトシンセを鳴らす場合:

DAWには、たとえばrefaceからDAWに入力された演奏信号をrefaceに戻す機能(エコーバックまたはMIDIスルー機能)があります。DAWソフトウェアから戻ってくるMIDI信号でrefaceが鳴るのを避けたい場合は、DAWソフトウェアのエコーバック機能を切ってください。詳しくはDAWソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

[USB]端子ご使用時の注意

[USB]端子でコンピューターと接続するとき、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れなおしてください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用になれません。
- [USB]端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、[USB]端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン/オフ(スタンバイ)やUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください(鍵盤を押すだけでも、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフ(スタンバイ)やUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

ヤマハUSB-MIDIドライバー

通常はUSBケーブルで接続し、本体の電源を入れるとデータの送受信ができるようになります。ただし、動作が不安定だったり不具合が発生した場合は、下記URLからヤマハ標準のUSB-MIDIドライバーをダウンロードし、インストールしてください。

<https://download.yamaha.com/jp/>

NOTE

- 動作環境については、上記URLをご覧ください。
- USB-MIDIドライバーは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記URLをご確認ください。

iPhone/iPadと接続する**NOTE**

iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone/iPadの機内モードをオンしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

注記

iPhone/iPadを不安定な場所に置かないでください。iPhone/iPadが落下して破損するおそれがあります。

refaceに対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

接続のしかたについて詳しくは、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。

対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

工場出荷時の状態に戻す(ファクトリーリセット)

ファクトリーリセット機能を使うと、すべての設定が工場出荷時の状態に戻ります。

注記

- **reface DXのみ**：
ファクトリーリセットを行なうと、本体に保存した[FUNCTION]ボタン内での設定がすべて工場出荷時の設定に置き換わるので、ご注意ください。

ファクトリーリセットを行なう

- ① 右端の鍵を押しながら電源を入れます。
 - **reface CS、reface CP、reface YC**
本体のランプが点滅します。
 - **reface DX**
画面に「Factory reset」と表示されます。
ファクトリーリセットが完了すると、ランプの点滅が終わり、画面表示が消えます。
- ② 点滅や画面表示が終わったら、指を離します。

● reface DXの場合

[FUNCTION]ボタンを使ってファクトリーリセットを行なうこともできます。

- ① [FUNCTION]ボタンを押して、ジョブ画面を選びます。
- ② 「FACTRY RESET」のスイッチをタップします。
確認の画面が表示されます。
- ③ 「YES」のスイッチをタップします。
工場出荷時の設定に書き換わります。

資料

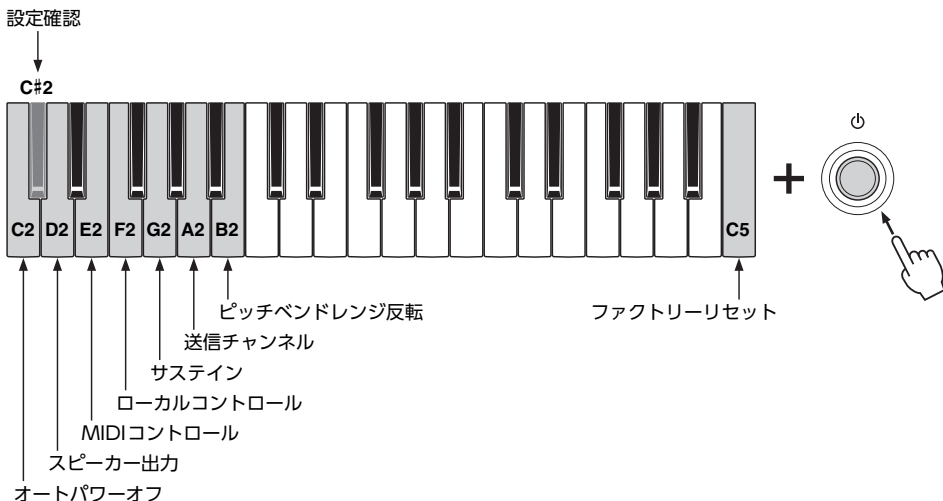
■ 鍵盤設定一覧

特定の鍵を押したまま [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押すと、各種設定ができます。

電源が入っていたら、一度電源を切ってから操作してください。

各設定のオン、オフなどの設定値は上記の手順を行なうごとに切り替わります。オートパワーオフについては、一度オフ(無効)にした後もう一度オン(有効)にしたい場合はファクトリーリセットを行なってください。

鍵盤設定は電源を切っても保存されます。



reface DXの場合は、[FUNCTION] ボタンからも各種設定を行なうことができます。詳細については reface DXの「フロントパネルの各部のはたらき」(16ページ)をご覧ください。

● オートパワーオフ

オン(有効)：無駄な電力を消費しないよう、30分操作しないと自動的に電源が切れます。

オフ(無効)：自動的に電源が切れることはありません。

詳しくは「オートパワーオフ機能」(8ページ)をご覧ください。

工場出荷時の設定：オン(有効)

● オフ(無効)にする時の表示

CS	LOOPERセクションのランプが点滅
DX	[Auto power off disabled.] と表示
CP	[TYPE] ノブのClvランプとTREMOLO/WAH~D.DELAY/A.DELAYのランプが点滅
YC	ROTARY SPEEDのランプが点滅

● ファクトリーリセット

鍵盤設定を含むすべての設定が工場出荷時の設定に戻ります。reface CSとreface DXではループフレーズも工場出荷時の状態に戻ります。

詳しくは「工場出荷時の状態に戻す(ファクトリーリセット)」(40ページ)をご覧ください。

● 設定時の表示

CS	OSC [TYPE]のランプが点滅
DX	[Factory reset] と表示
CP	TYPEのランプが点滅
YC	WAVEのランプが点滅

● スピーカー出力

内蔵スピーカーから音を出すか出さないかを設定します。オフにすると内蔵スピーカーから音が出ません。

工場出荷時の設定：オン

● 設定時の表示

CS	オン：LOOPERセクションのランプが点灯 オフ：LOOPERセクションのランプが点滅
DX	[speakers ON] または [speakers off] と表示
CP	オン：[TYPE]ノブのClvランプとTREMOLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点灯 オフ：[TYPE]ノブのClvランプとTREMOLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点滅
YC	オン：ROTARY SPEEDのランプが点灯 オフ：ROTARY SPEEDのランプが点滅

● MIDIコントロール

reface特有のコントロールチェンジメッセージ送受信のオンとオフを切り替えます。オンのときは、refaceを操作すると、その機種のみに対応したMIDIメッセージが送信されます。ボリュームとオクターブは操作しても送信されません。reface DXではFMセクション([FREQ]ボタン、[LEVEL]ボタン、[ALGO]ボタン、[FB]ボタン)の設定を変えるとコントロールチェンジが送信され、その他の設定は送信されません。詳細(操作子とコントロールチェンジ番号とパリュウの対応)については「MIDIリファレンス」(電子マニュアル)を参照してください。

工場出荷時の設定：オフ

● 設定時の表示

CS	オン：LOOPERセクションのランプが点灯 オフ：LOOPERセクションのランプが点滅
DX	[MIDI control ON] または[MIDI control off] と表示
CP	オン：[TYPE]ノブのClvランプとTREMOLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点灯 オフ：[TYPE]ノブのClvランプとTREMOLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点滅
YC	オン：ROTARY SPEEDのランプが点灯 オフ：ROTARY SPEEDのランプが点滅

● ローカルコントロール

refaceの内部音源と鍵盤を切り離す(オフ)かつなげる(オン)かを設定します。外部のMIDIコントローラーからrefaceの内部音源を鳴らし、refaceの鍵盤からは鳴らさないときは、MIDIコントロールをオン、ローカルコントロールをオフにします。

工場出荷時の設定：オン

● 設定時の表示

CS	オン：LOOPERセクションのランプが点灯 オフ：LOOPERセクションのランプが点滅
DX	[Local control ON] または [Local control off] と表示
CP	オン：[TYPE]ノブのClvランプとTREMLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点灯 オフ：[TYPE]ノブのClvランプとTREMLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点滅
YC	オン：ROTARY SPEEDのランプが点灯 オフ：ROTARY SPEEDのランプが点滅

● サステイン(reface DXとreface CP)

サステインの設定を切り替えます。フットペダル(FC3)、またはフットスイッチ(FC4、FC5)を接続する場合、ハーフペダル機能の有無によって、「FC3」または「FC4/5」のどちらかを選びます。

工場出荷時の設定：

DX：FC4/5(FC3ハーフペダル機能なし、またはFC4、FC5使用)

CP：FC3(FC3ハーフペダル機能あり)

● 設定時の表示

DX	[Sustain FC3] または [Sustain FC4/5] と表示
CP	FC3：[TYPE]ノブのClvランプとTREMLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点灯 FC4/5：[TYPE]ノブのClvランプとTREMLO/WAH～D.DELAY/A.DELAYのランプが点滅

● 送信チャンネル(reface CSとreface DX)

MIDI送信チャンネルを設定します。「1 ch」(チャンネル1)または「off」(オフ)のどちらかを選びます。

工場出荷時の設定：1 ch(チャンネル1)

● 設定時の表示

CS	1 ch：LOOPERセクションのランプが点灯 オフ：LOOPERセクションのランプが点滅
DX	[MIDI transmit ch 1] または [MIDI transmit ch off] と表示

reface DXでは、[FUNCTION]ボタンでMIDI設定画面を開き、チャンネル2～16も選べます。詳しくはDXの「フロントパネルの各部のはたらき」(16ページ)をご覧ください。

● ピッチベンドレンジ反転(CSのみ)

ピッチベンドで値の増減をする向きを逆にすることで、reface CSを手で持って演奏したときにギターのチョーキングのような動きをすることができます。

工場出荷時の設定：+12(レバーを上へ動かすとピッチが上がる)

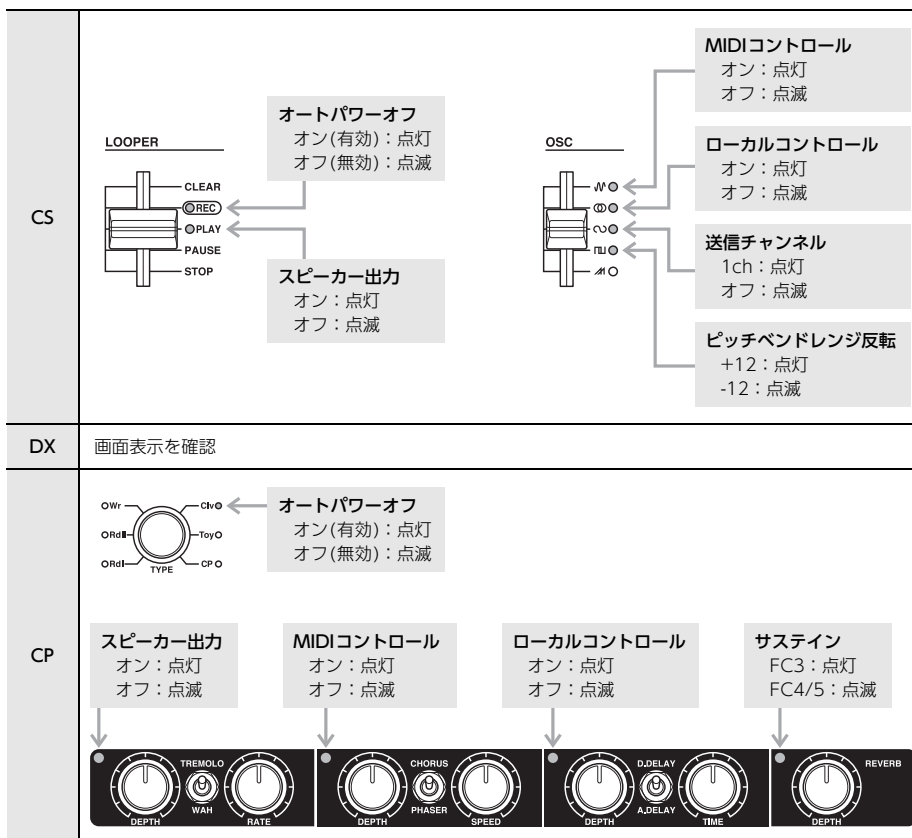
● 設定時の表示

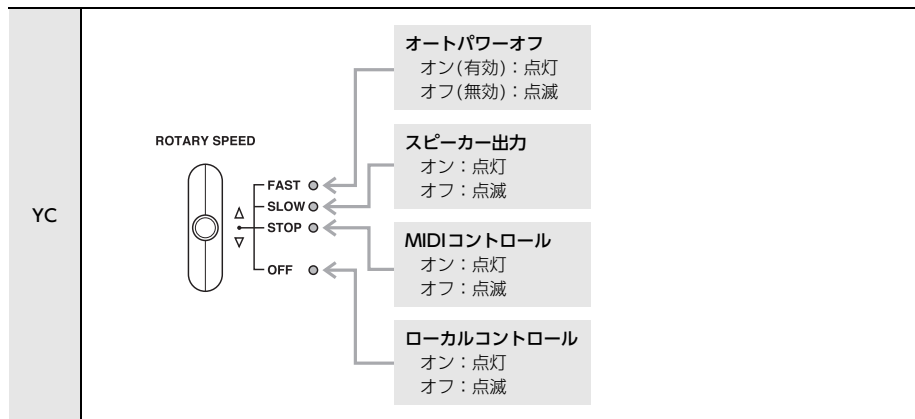
CS	+12：LOOPERセクションのランプが点灯 -12：LOOPERセクションのランプが点滅
----	--

● 設定確認

鍵盤設定の各項目について、現在の設定を確認します。

● 確認時の表示





■ reface DXメッセージ一覧

メッセージ	説明
Are you sure?	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Battery Low!	電池電圧が低下している時に表示されます。電池を交換するか、ACアダプターを正しく付けてください。
Looper Memory Full	フレーズルーパー用のメモリーがいっぱいで、録音したデータを保存できない場合に表示されます。
Stopping Looper, OK?	フレーズルーパーの再生あるいは、録音を停止してから操作してください。

■ 困ったときは

「音が出ない」「音色がおかしい」などといった場合は、まず以下の項目をチェックしてください。また、ファクトリーリセット(40ページ)を行なうと解決できることもあります。それでも直らないときは、お買い上げのお店、または巻末の問い合わせ窓口にご連絡ください。

現象	機種名	考えられる原因	解決法	
電源が勝手に切れる。	全機種	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。	オートパワーオフ機能を使いたくない場合は、機能を無効にしてください。(41ページ)	
音が鳴らない。	全機種	音量が下がっています。	[VOLUME]または[VOL]スライダを動かして、音量を上げてください。	
		ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。(5ページ)	
		ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(43ページ)	
		スピーカー出力がオフになっています。	スピーカー出力をオンにしてください。(42ページ)	
	CS YC	フットコントローラーによって、MIDIボリュームやエクスプレッションが下がっています。	[FOOT CONTROLLER]端子にフットコントローラーを接続している場合は、動かしてみてください。	
	[AUX IN]端子からの音が出ない。	全機種	接続しているオーディオ機器のボリュームが最小になっていませんか?	接続しているオーディオ機器のボリュームを上げてください。
	設定を変えたら音が出なくなった。	CS	EGのAが上がりがすぎています。	[A]スライダを下げてください。
		CS	フィルターのカットオフ周波数が低くなりすぎています。	フィルターのカットオフ周波数を調整してください。
		CS DX	LFOのAMPアサインタイプでDepthが深く周期が遅い状態です。	LFOのタイプを変更、または周期を早く、またはDepthを浅くしてください。
		DX	キャリアのレベルが0になっています。	キャリアのレベルを上げてください。
DX		キャリアがOFFになっています。	キャリアのONにしてレベルが上がっていることを確認してください。	
DX		キャリアのFREQまたはRATIOが上がりがすぎています。	キャリアのFREQまたはRATIOを下げてください。	
YC	FOOTAGEスライダがすべて上がっています。音量0の状態です。	FOOTAGEスライダを下げてください。		

現象	機種名	考えられる原因	解決法	
音の一部が鳴らない。 音が途切れる。	操作していたら音の一部が出なくなりました。	CS DX	最大同時発音数を超えています。	最大同時発音数を超えないようにしてください。
	同時に複数の音が発音できない。	CS DX	発音方式が「MONO」になっていませんか？	発音モードを「MONO」から「POLY」に切り替えると和音演奏できます。
	低い音が出なくなりました。	YC	FOOTAGE[16']スライダーのみ下げていて、[OCTAVE]スライダーも下がっています。音が低くなりすぎている可能性があります。	[OCTAVE]スライダーを上げてください。
	オルガン音が出なくなりました。(パーカッションしか鳴らない。)	YC	HタイプのオルガンではFOOTAGE [1']スライダーを下げててもオルガン音は鳴らず、パーカッションだけが鳴る仕様です。	故障ではありません。
音が止まらない。	設定を変えたら音が止まらなくなった。	CS	EGのRが上がりすぎています。	EGセクションの[R]スライダーを下げてください。
		CS DX	DELAYのDepthが上がりすぎています。	DELAYのDepthを下げてください。
		CS DX	フレーズルーパーがループフレーズを再生しています。	フレーズルーパーをPause(一時停止)またはStop(停止)してください。
		CP	D.DELAYまたはA.DELAYのDepthが上がりすぎています。	[D.DELAY] または [A.DELAY] のDepthを下げてください。
音がひずむ	全機種	音をひずませる設定になっていませんか。	reface CSはOSCの設定、レゾナンス、ディストーションエフェクト、reface DXはモジュレーターの数値やディストーションエフェクト、reface CPはドライブノブの設定、reface YCはDISTの設定を変えてみてください。	
ペダルが効かない。	全機種	ペダルが正しく接続されていません。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子または[FOOT CONTROLLER]端子に確実に接続されているか確認してください。	

■仕様

項目		内容			
		reface CS	reface DX	reface CP	reface YC
鍵盤	鍵盤数	37鍵			
	鍵盤種	HQ (High Quality) Mini鍵盤			
	イニシャルタッチ	○			
音源	音源方式	AN音源 (Analog Physical Modeling)	FM音源	SCM音源 + AWM2	AWM音源 (Organ Flutes)
	最大同時発音数	8	8	128	128
音色	タイプ数	5	12(アルゴリズム)	6	5
	ボイス数	—	32	—	—
	エフェクト	ディストーション、 コーラス/フラン ジャー、 フェーザー、 ディレイ	ディストーション、 タッチワウ、 コーラス、 フランジャー、 フェーザー、 ディレイ、 リバーブ	ドライブ、 トレモロ、ワウ、 コーラス、 フェーザー、 デジタルディレイ、 アナログタイプ ディレイ、 リバーブ	ロータリースピー カー、 ディストーション、 リバーブ
フレーズルーパー		○	○	—	—
ディスプレイ	タイプ	—	フルドットLCD (128×64ドット)	—	—
	接続端子		DC IN (12V) 端子		
		HEADPHONES (ステレオ標準フォンジャック)			
		OUTPUT L/MONO, R (標準フォンジャック)			
		FOOT CONTROLLER	SUSTAIN	SUSTAIN	FOOT CONTROLLER
		AUX IN (ステレオミニジャック)			
		USB (TO HOST)			
		MIDI (ミニDIN IN/OUT)			
アンプ/ スピーカー	アンプ出力	2W × 2			
	スピーカー	3cm × 2			
電源	電源	電源アダプター	PA-130B (またはヤマハ推奨の同等品)		
		電池	単3乾電池×6 (別売) 充電式ニッケル水素電池対応		
	消費電力	6W (電源アダプター PA-130B使用時)			
	電池寿命	約5時間 (アルカリ電池使用時)			
オートパワーオフ		○			
サイズ/ 質量	寸法	幅×奥行×高さ 530 (W) × 175 (D) × 60 (H) mm			
	質量 (本体のみ)	1.9kg			
付属品		電源アダプター、MIDI変換ケーブル、取扱説明書、保証書			

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書の最新版につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

■ 索引

数字

[1]～[8] ボタン20

A

[A][D][S][R] スライダー13
[ALGO] ボタン19
[ASSIGN] スライダー11
[AUX IN] 端子5

B

[BANK] ボタン20

C

CHORUS/PHASER28
[CHORUS/PHASER] スイッチ28
[CUTOFF] スライダー13

D

DATA ENTRY セクション16
DAW ソフトウェア37, 38
DC IN 端子4
D.DELAY/A.DELAY29
[D.DELAY/A.DELAY] スイッチ29
[DEPTH] スライダー11, 13, 34
[DEPTH] ノブ28, 29
[DIST] スライダー34
[DRIVE] ノブ27

E

[EDIT] ボタン20
EFFECT セクション13, 34
[EFFECT] ボタン22
[EG level] ボタン20
[EG rate] ボタン20
EG セクション13
EG バランス スライダー13

F

[FB] ボタン19
FILTER セクション13
FM 音源18
FM セクション18
[FOOT CONTROLLER] 端子4
FOOTAGE セクション33
[FREQ] ボタン19
[FUNCTION] ボタン21

I

iPhone/iPad39

L

[LENGTH] スライダー34
[LEVEL] ボタン19
LFO セクション11
[LFO] ボタン20
LOOPER スライダー11
LOOPER セクション10
[LOOPER] ボタン23

M

MIDI キーボード36
MIDI コントロール21, 42
MIDI 受信チャンネル21
MIDI 設定画面21
MIDI 送信チャンネル21
[MIDI] 端子5
[MOD] スライダー12

O

[OCTAVE] スライダー10, 16, 32
[OCT] スライダー26
[ON/OFF] スイッチ34
[OP1]～[OP4] ボタン20
OSC セクション12
OUTPUT [R]/[L]/[MONO] 端子5

P

PERCUSSION セクション34
[PHONES] 端子5
[PITCH BEND] レバー10, 16
[Pitch EG] ボタン20
[PORTAMENTO] スライダー11

R

[RATE] スライダー13
[RATE] ノブ28
[RESONANCE] スライダー13
[REVERB] スライダー34
REVERB セクション29
[ROTARY SPEED] レバー32

S

[SPEED] スライダー11
[SPEED] ノブ29
[STORE] ボタン23
[SUSTAIN] 端子4

T

[TEMPO] スライダー11
[TEXTURE] スライダー12
[TIME] ノブ29
TREMOLLO/WAH27
[TREMOLLO/WAH] スイッチ28
[TYPE] スイッチ34
[TYPE] スライダー12, 13
[TYPE] ノブ26

U

[USB] 端子5, 39

V

[VIBRATO/CHORUS] スイッチ34
VIBRATO/CHORUS セクション34
VOICE SELECT/EDIT セクション20
[VOLUME] スライダー10, 16, 32
[VOL] スライダー26

W

[WAVE] ノブ33

え

液晶ディスプレイ (表示画面)18
エディットリコール22

お

オートパワーオフ22, 41
オートパワーオフ機能8
オーバーダビング15, 25
オペレーター18
音源モジュール36

か

外部機器36
乾電池7

き

キャリア18

こ

コントラスト22
コントロール21

さ

サステイン22, 43

し

システム設定画面22
ジョブ画面22

す

スイッチ16
[Ⓞ] (スタンバイ/オン) スイッチ4
ストア画面23
ストアネーム画面23
スピーカー出力22, 42

せ

設定確認44

そ

送信チャンネル43
ソフトシンセ38

た

タッチ式スライダー16
タップ17

て

電源6, 8
電源アダプター6
電池7

と

同期37
トランスポーズ21

な

内蔵スピーカー10, 16, 26, 32

ひ

ピッチベンドレンジ21
ピッチベンドレンジ反転44

ふ

ファクトリーリセット22, 40, 42
フリック17
フリーズレバー14, 24

ほ

ボイスイニシャライズ22
ボイスパラメーター設定画面21
ボイスリコール22
ポルタメントタイム21

も

モジュレーター18
モノ/ポリ21

や

ヤマハ USB-MIDI ドライバー39

り

リアパネル4

ろ

ローカルコントロール21, 43

■保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。
詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店または修理ご相談センターへご相談ください。

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理品お持ち込み窓口へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

修理ご相談センター

フリーダイヤル



0120-149-808

携帯電話、IP電話からは050-3852-4106

- 受付 : 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
- FAX : 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

◆修理品お持ち込み窓口

- 受付時間: 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F

FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

◆ユーザーサポートサービスのご案内

ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ウェブサイトよりお願いします。

ヤマハ音楽制作機器ウェブサイト

<https://jp.yamaha.com/mp/>

*ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号(SER No.)が必要になります。

*ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ウェブサイトよりお手続きください。

質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術/高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究/改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口を開設いたしております。

お気軽にご利用いただけますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」をお知らせください。

お客様コミュニケーションセンター シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

フリーダイヤル



0120-145-808

携帯電話、IP電話からは050-3852-4083

● 営業時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ楽器音響製品お客様サポートLINE公式アカウント



◆ウェブサイトのご案内

・ヤマハ音楽制作機器ウェブサイト <https://jp.yamaha.com/mp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。



ZT92190

© 2015 Yamaha Corporation
2024年12月 発行
KSES-C0



ZT92190